

5.3 遠隔指導の検証

5.3.1 検証内容

5.3.1.1 実験の意義

高齢化社会においては、介護方法は誰でも知っていて、家庭の中で介護の必要な方がいる場合はもちろんであるが、外出時などでも支援を求めている人がいれば、誰でも支援することができるようにしておくことが望ましい。しかし、介護情報はあふれているが、介護方法についての適切な情報はテレビで放送される機会があっても、一般の人は見逃してしまう場合も多い。

平成元年に策定された厚生労働省のゴールドプランに基づき始まったホームヘルプサービス事業は、その後の新ゴールドプラン等により大きく拡充している。ホームヘルパー養成研修事業の実施についても、身体介護を中心とする介護ニーズの増加やホームヘルプサービスチーム運営方式、24時間対応ヘルパー事業などの新しい業務形態の導入に的確に対応していくために、平成7年に厚生労働省はホームヘルパー養成研修カリキュラムを見直し、新たに実施要綱を定めている。近年の社会的関心の高さも相まって、幅広い年齢層のホームヘルパー養成研修講座修了者を多数排出している。ヘルパーの役割は介護される人のQOLを充実することはもちろんであるが、介護者の負担を少なくすることも目的で、ヘルパーは介護者の代わりとして考えることもできる。したがって、ヘルパーになるために必要な知識・技術はだれでもが知っておくことが、高齢社会では必要である。今回の専門家スキルアップ講座プログラムは、あくまで、研修機会が少ない、2級のスキルアップの目的で行う。しかし、先に述べたヘルパーに必要な介護についての知識・技術は誰にとっても有用だという視点に立ち、インターネットという媒体のメリットを活かした、一般の市民誰でもがこのプログラムに接することで、介護ということに興味をもち、適切な介護方法についての情報に、いつでも簡単に接せられるようにすることも目的にする。

本研究の目的は、幅広い年齢層のライフスタイルに応じて、自宅にいながら簡便に受講できるマルチアングル映像によるラーニングシステムの学習プログラムの配信と、身近な場所で学種を可能とするIPv6を用いた遠隔講義の実証実験ならびに評価を行う。

5.3.1.2 検証内容

誰にとっても身近な学習機会の保証を目指し、本プログラムでは下記の検証を行った。

(1) 介護方法についてのビデオ学習プログラムのインターネットでの配信

- ・対象は一般市民を含め介護情報を得たい人、介護方法についてのスキルアップを望むヘルパーなど、「インターネットユーザーなら誰でも」を想定し、ビデオによる技術学習の推進をはかる。そのため藤沢市内でビデオ学習を多くの人に知ってもらい、アクセス数から介護についてのビデオ学習の需要がどのくらいあるかについて検証する。ビデオ学習の登録時のアンケートからビデオ学習者の職種や年齢層を明らかにする。
- ・インターネットをあまり利用したことがない人にも、学習機会を与えるため公民館やヘルパーステーションにインターネットに接続したパーソナルコンピュータを設置し、学習機会の拡大をはかり、その利用状況を検証する。また、インターネット利用をしたい人でも利用の仕方がわからないために利用できない人をサポートするインターネットアクセス支援隊を学生の中から募り支援できる体制を整える。

(2) 身近な場所での遠隔講義

- ・自分の働いている職場内での遠隔講義を行い、気軽な場所で行ったことで学習意欲が向上したか、また講義から新しい知識を得たり、知識や技術の確認ができたかを検証する。
- ・市民が住む身近なエリア内の公共機関(公民館等)での遠隔講義を行い、多くの人が学ぶ機会を得ることができたかを検証する。また講義から新しい知識を得たり、知識や技術の確認ができたかを検証する。

(3) 遠隔講義の実施の簡便性

- ・様々な場所で遠隔講義を実施するためのキットを開発し、より簡便に遠隔講義が実施できたかを検証する。

5.3.2 実験方法

5.3.2.1 モニターについて

(1) ビデオ学習コースのモニター募集

本実証実験で行われた「ビデオ学習コース」におけるモニター募集は、以下の通りに行った。モニター募集の際の説明書(同意書含む)については、慶應義塾大学看護医療学部研究倫理委員会の承認(2002年12月)を得たものを用いた。

e-ケアタウンプロジェクトの Web ページ上 (<http://www.e-care-project.jp/program-4.html>) に説明書を置き、説明書をよく読み、モニター登録を行う。モニター登録をもって研究内容に同意したものとした。

今年度は身近な学習機会の保証するため、ヘルパーステーションや公民館に協力を依頼し、ブロードバンドでインターネットを利用できビデオ学習が可能となるパソコンを設置し、モニターを募集した。パソコンがあっても操作に慣れていない人もいるため、パソコンを立ち上げ、映像再生ソフトをダウンロードし、ビデオが視聴できるまでの設定と助言を行なえるように慶應義塾大学の学生によるアクセス支援隊を組織した。

また、ビデオ学習者の拡大を図るため、ビデオ学習の受講促進を狙ったパンフレットを作成し、藤沢市内ヘルパーステーション、藤沢市役所介護保険課、藤沢市内公民館、藤沢市社会福祉協議会、人材派遣に関する企業等に2004年10月に配布した。(配布先は表5.3-1参照)。なおビデオ学習の対象者はADSL以上でインターネットに接続が可能な人である。

表5.3-1 パンフレット配布数

配布先	配布枚数
介護事業所(46ヶ所)	925
藤沢市公民館(13ヶ所)	420
藤沢市社会福祉協議会〔ヘルパー2級養成講座も含む〕	285
藤沢市役所〔介護保険課、生涯教育課〕	330
神奈川県社会福祉協議会	50
出版社(8ヶ所)	11
パソナ(1ヶ所)	300
ORF	2,679
合計	5,000

モニター参加希望者のためには、e-ケアタウンプロジェクト Web ページに、昨年からの配信している e-

専門家スキルアップ講座へのお誘いや入浴介護シリーズの第1回（入浴準備編）のシングルアングルのビデオを試しに視聴することは可能である。

それ以外のビデオ、入浴編の第2回目から第4回目、今年度作成した「外出支援編」「住居環境編」を学習するためにはWeb上でモニター登録を行う必要がある。

モニター登録は自分のメールアドレス等を登録し、その後にそのアドレスにこちらからパスワードを支給する。ビデオを見るときはいつでも、登録したアドレスとパスワードを入力することが必要となる。このためビデオ学習時には、モニター個々人の学習プロセスの履歴がとれ、ビデオを何回見たか、クイズには答えているか、アンケートに回答したかが明らかになる。

e-専門家スキルアップ講座

【受講者登録】

- 専門家スキルアップ講座はヘルパー2級の資格をお持ちの介護の専門家を対象とし、ちょっとした時間を利用したスキルアップをはかっていただくためのプログラムです。また、ヘルパー2級をお持ちでない方も、日ごろの介護のノウハウを身に着的るためにご活用いただけます。
- この画面から「ビデオ学習コース」の受講登録(無料)をしていただく。現在「専門家スキルアッププログラム」で公開しているすべてのビデオを視聴できるようになります。(注:コースの2回目・3回目・4回目のビデオは登録なしでは視聴することができません。)
- 「実技研修コース」も若干名募集しておりますので、参加ご希望の方は、下記のフォームで「希望」にチェックしてください。後ほど本プロジェクトよりメールにて詳細のご連絡をさせていただきます。なお、実技研修コースは藤沢市在住あるいは藤沢市にお勤めの方に限定した実験コースで、また、人数に限りがありますので、ご希望に添えない場合もありますことをご承知ください。
※ 第1回実技研修コースは平成15年3月8日に終了しました。
実技研修コースの今後の予定は、決まり次第受講登録いただいた方にメールにてお知らせします。

■ データの取り扱いについて

- ここで登録いただいた方のデータは、専門家スキルアッププログラムでの認証、およびe-ケアタウンプロジェクトの今後の展開のための資料として利用するもので、当プロジェクト以外に利用いたしません。
- 登録いただいた情報は漏洩のないよう、研究者が厳重に管理します。
- 研究発表公開の際には、個人を特定できるような記述はいたしません。
- なお、ご意見をいただくために、登録いただいたメールアドレスにご連絡させていただくことがありますのでご協力をおねがいたします。

以下の登録フォームに必要事項を記入の上、「確認」ボタンを押して下さい。

■ 受講者情報 (必須項目)		
メールアドレス	<input type="text"/> (例: abcde@aaa.bbb.ccc)	
メールアドレス (確認のためもう一度)	<input type="text"/>	
藤沢市との関係	<input type="radio"/> 藤沢市に住んでいる <input type="radio"/> 藤沢市で仕事をしている <input checked="" type="radio"/> 特になし	
資格	<input checked="" type="radio"/> ヘルパー2級の資格を持っている <input type="radio"/> ヘルパー2級の資格を持っていない	
実技研修コース	<input type="radio"/> 実技研修コースを希望する <input checked="" type="radio"/> 実技研修コースを希望しない	
■ 受講者情報 (実技研修コース希望の方は必須項目:ビデオ自習コースの方はオプション)		
氏名	姓 <input type="text"/> (例: 慶應)	名 <input type="text"/> (例: 太郎)
	シメイ (カタカナ)	姓 <input type="text"/> (例: ケイオウ)
Name (英語)	姓 <input type="text"/> (例: Keio)	名 <input type="text"/> (例: Taro)
	その他連絡先 <input type="text"/> 実技研修コース希望の方で、メールでの連絡が取りづらい方は、電話番号あるいは住所などの連絡先をご記入ください。	

図5.3-1 e-専門家スキルアップ講座モニター登録画面

(2) 遠隔講義コースの研修生募集

Web上で「ビデオ学習コース」に登録する際に、遠隔講義コースの参加の意志を確認した。また、このプロジェクトに協力している藤沢市内のヘルパーステーションに勤務しているヘルパーや、公民館の周辺一般の市民、公民館の介護教室受講者から、遠隔講義の受講者を募った。

(3) Certificate 制度

このプログラムでは、ヘルパー2級の方の時間が取れないことを考慮し、学習意欲を持続するために、Certificate 制度を導入した。

Certificate 制度とは、インターネット上での「ビデオ学習コース」を確実にいき、その後「遠隔講義コース」の研修を修了し、課題レポートを提出したモニターに修了認定証を授与することで、学習意欲の向上をめざすものである。

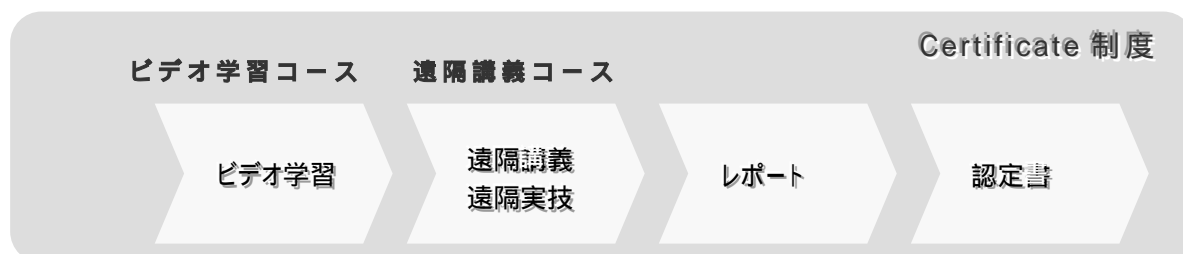


図5.3-2 Certificate 制度

5.3.2.2 インターネットによるビデオ学習

今回は、「外出支援」「住宅環境」の2シリーズのビデオを作成した。「外出支援シリーズ」は、ヘルパーの介助技術を応用させ、外出することで利用者が生き生きとした生活を送れるためのビデオである。一方、「住宅環境シリーズ」は、利用者が動きやすく安全に生活できるように住宅環境を整えていくことやヘルパーが健康、環境へ配慮し、安全でかつ効率的な家事援助を実施するためのビデオである。講座は、1シリーズ毎、2本で構成し、1本の講座は約20分とし、下記の4つのステップを用意した。

STEP-1. ビデオを見る

STEP-2. マルチアングルでポイントを確認する

STEP-3. クイズに解答する

STEP-4. アンケートに答える

各回で配信するビデオは、研修のストーリーのメインとなるシングルアングル配信とマルチアングル配信（前後、横、上方等から撮影）となっており、それぞれ約20分ずつの教材とした。到達目標としては、シングル配信による学習とマルチアングル配信の活用により、介護技術の方法についての知識と実践的な技術を学習し、介護の技術が向上することをねらっている。

ビデオ学習の対象者はADSL以上でインターネットに接続が可能な人である。ビデオ配信するWebにアクセスしビデオ学習を開始するときに登録画面に移る。このプログラムについての説明書を置き、ビデオモニターへの参加意志がある人が同意書に名前とメールアドレスを記入する（モニター登録）。モニター登録した人は、IDとパスワードがモニターのメールアドレスに届くので、それらを入力し視聴したいビデオをクリックすると視聴可能となる。

マルチアングルで側面や後ろ側など、普通のシングルアングルビデオでは写らない部分を写すことにより、介護技術の修得に役立てる。

ビデオ視聴後、内容理解度を評価する。この際、受講した方にWeb上でのビデオ学習についてアンケートに答えて頂き、シングルアングル、マルチアングルでの理解度の差を聞くようにする。

昨年度は、スキルアップのビデオへアクセスが複雑という声が多かったため、ビデオへのアクセスを簡素化するためにスキルアップのサイトを修正した。さらにe-ケアタウンのトップページからもビデオにすぐにアクセスできるように改善した。

5.3.2.3 次世代 IPv6 インターネットを用いた遠隔講義

本プログラムでは、ビデオ学習が終了したモニターの中から、遠隔講義に参加するモニターを募った。e ケア・スタジオで行われる介護に関する講義はヘルパーステーションや公民館でリアルタイムに中継され、擬似対面型・双方向の遠隔講義が行われた。モニターは自分が勤めるヘルパーステーションや身近な公民館で擬似対面型・双方向の遠隔講義に参加することが可能である。また、介護技術指導も同様に中継され、モニターは遠隔で実施する実技指導にも参加できる。

到達目標としては、ビデオ学習に含まれないより詳細な介護関連の知識を対面環境に近い状況で講師との双方向のやりとりも含めて習得可能にする。また、技術面においても、講師から介護技術について指導を受けることにより、介護の知識が増加し、介護技術がスキルアップすることを目指している。研修生と指導者が遠隔にいる場合、実技実習を伴う授業は、従来のビデオ会議システムでは十分な情報伝達ができない。本実験では、実技実習の様子をマルチアングルによる複数映像を同時に配信することにより、遠隔実技実習を行い、その実現可能性を評価する。

「外出支援」における遠隔実技実習は、(1) 遠隔にいる研修生に対して指導員が実技を伴う説明を行うケースと、(2) 実技を行う学生を遠隔から指導員が指導するケースの2つを実施し、実技実習の遠隔説明および遠隔指導の両方の可能性について評価を行う。

「住宅環境」は、講義の参加人数が多くなると予測されるので、実技は除き、講義だけを行なう。

5.3.2.4 遠隔講義の実施の簡便性の検証

e ケア・スタジオを拠点にしてケアスタッフの常駐するケアステーション、および各地の公民館に対して遠隔講義を簡便に実施するため、遠隔講義に必要な機材をセットにした可動式のキットを構築し、それを利用して、ケアステーションと公民館でそれぞれ実験を行う。

テレビ設備と高速インターネット接続のみが既存設備として想定した小規模な施設での実験として、ケアステーションとの遠隔講義を実施し、簡便性を評価する。

また、音響設備、大型スクリーン(2枚)を既存設備として想定した大規模な施設での実験として、公民館との遠隔講義を実施し、簡便性を評価する。

5.3.3 評価方法

(1) ビデオ学習

ビデオ学習のモニター登録数を確認し、モニター登録時アンケートからモニターの職種、住所地、年齢を把握した上で、ビデオアクセス数、ビデオのクイズ回答率、Web 上アンケート回答内容(コースの内容についての意見、Web ページの利便性・簡便性など)を調査する。

(2) 遠隔講義(遠隔講義と実技研修)

遠隔講義は、学びたいと思っても学ぶ機会がない2級ヘルパーが受講しやすい場所としての民間企業の藤沢市内ヘルパーステーション、一般市民が受講しやすい藤沢市内の公民館等の公共機関を利用し行なった。これらの対象者に対して、学習機会としてインターネットの利用についての意見、学習したもののうち有効な知識技術、遠隔講義についての有効性と限界についてインタビューする。さらに遠隔講義を担当している講師に対して、遠隔講義の利便性・効果と限界、実施担当者の評価、実施拡大の可能性についてインタビューする。公民館における遠隔講義では、多人数の参加が見込まれるのでアンケート用紙によって調査を行なった。調査内容は、「ビデオをみて役に立ったか」「遠隔講義の内容はわかりやすかったか」「ITを利用したビデオ学習について継続していけるか」などである。

(3) 遠隔講義の実施の簡便性

開発した稼動式遠隔講義キットを用いて公民館およびケアスタッフでの遠隔授業を実施し、その際の a)設置にかかった人・時間、b)設置に必要なとなった占有場所面積、c)撤収にかかった時間を測定し、その結果から遠隔講義キットの利用可能性を評価する。

5.3.4 実験結果

5.3.4.1 インターネットによるビデオ学習

(1) ビデオのテーマ選択

今回は、「外出支援」「住宅環境」の2シリーズのビデオを作成した。これらのビデオを作成した理由は以下の点である。

身体機能が衰えても、障害をもって、今までの生活習慣や趣味や楽しみなどが継続できることは、人にとって重要なことである。ヘルパーは利用者の生活を快適にするために支援していくことも大きな役割である。今回は、介助技術を応用させ、利用者が生き生きとした生活を送れる様に外出支援に焦点をあてたビデオを作成した。

ヘルパーは、利用者の日常生活に多く関わっているため、利用者の日常の動きを観察できる。そのため利用者が動きやすく安全に生活できるように住宅環境を整えていく視点を持ち合わせる必要があり、住宅改善に焦点をあてたビデオを作成した。さらにヘルパーの業務の中で家事援助は多くの割合を占めるが、単なる家事援助ではなく、環境への配慮と、健康的な生活を送るための安全でかつ効率的な家事援助を実施する必要があり、住宅環境整備に焦点をあてたビデオを作成した。

ビデオの主旨は、単に援助技術のスキルアップだけでなく、生活の場面を通して外出を支援し、コミュニケーションを通じて、被介護者の QOL にも配慮できるヘルパー教育を目指した。住宅環境においても、ヘルパーの日常業務を通じて住宅改善や住宅環境整備の観点を盛り込み、ビデオが即実践に役立つようにした。

(2) ビデオ作成

ビデオは、昨年度は1シリーズ4本とする「入浴介護編」を作成したが、モニターより長すぎるとの評価が多かった。そのため、今回は、1シリーズ各2本とし、「外出支援シリーズ」に「車椅子編」と「杖編」、「住宅改善シリーズ」に「住宅改善編」と「住宅環境編」を製作した。「外出支援シリーズ」の「車椅子編」の内容は、外出の時に留意する点や屋外での車椅子操作方法、車を利用しての外出方法である。「杖編」の内容は、屋外での杖歩行の介助方法である。「住宅環境シリーズ」の「住宅改善編」の内容は、高齢者の安全・自立のための住宅改修をするプロセスである。「住宅環境編」の内容は、人が快適・安全な住宅環境で生活するため具体的な方法である。それぞれのビデオは、学習者の集中力を考慮し、1本20分前後に設定しシナリオを作成した。シナリオは、各回のキーワードを抽出し、研究者間で協議を重ねて作成した。それをもとに、撮影スタッフと共に、シーン、カットについて検討した。すべてのシーンが、e ケア・スタジオで撮影できるものではないため、撮影場所や撮影時期・時間帯、天候などを考慮して、撮影をすすめていった。「外出支援シリーズ」の「車椅子編」の買い物については、一般の店舗では撮影が困難なため、慶應義塾大学 SFC の生協の売店を使用した。時期が夏休み休暇だったので、売店の商品がまだそろっていないため、売店にある商品を並べ、品物が豊富にあるようにした。お客がたくさんいる状況を設定したいため、撮影スタッフ、教員、生協職員など総出で撮影に参加した。車を利用して買い物にでかける内容であるので、店舗の駐車場を看護医療学部の北側の場所を使用し、地面に白線のテープを引き、駐車場に見立てた。さらに校外での撮影は道路使用の許可申請をする必要があるため、慶應義塾大学の SFC 内で歩行しやすいあるいは車椅子が使用できる場所を選んだ。さらに視覚的に外出することによって気分がすがすがしくなるような映像を作るための撮影環境も選んだ。

「杖編」では、地区センターに絵をみにいきながら散歩をするという設定になっている。看護医療学部の構内には、鳥の絵を飾ってある場所があり、そこを地区センターにみたてて撮影を行なった。看

護医療学部の中庭も地区センターに見立ててシーンづくりに使用した。散歩途中の休憩の場面を撮影する時には、看護医療学部のベンチを利用し、高齢者とヘルパーが公園でくつろぐ姿を撮影した。

「住宅環境シリーズ」の「住宅改善編」では、実際に住んでいる住宅を使用した。住宅改善を望んでいる人の実際例を用いて、撮影のシナリオを作成していった。撮影はプライバシー保護のために俳優に演技してもらった。実際の体験をもとにしているため、現実味のあるビデオになっている。「住宅環境編」では、看護医療学部の在宅実習室にて撮影を行ない、家具などを借り入れ、よごれやほこりを作り、高齢者が住んでいる様に設定した。

マルチアングルシーン・カットの設定については、体の位置関係や手の添え方など通常一方向からでは見えにくい部分を中心に詳細に検討を重ねた。正面、側面、背面からの撮影方向でカメラを設定し、撮影中にもモニター画面でシーンを確認しながら、カメラワークの修正を加えた。実際の撮影では、メイン画面の部分は詳細な技術を伝えるため、カット割りして撮影する必要があった。そのため、メイン場面と側面や背面と同時に撮影できない部分が多々あった。住宅環境編では、マルチアングルは入れていない。

撮影には、研究者が全て立会い、役者指導を行いながらできるだけ臨場感があるものとするため、撮影スタッフと共に音声収録にも配慮した。また、ナレーションについては、モニターの理解力を考慮し、難しい医学用語はできるだけ避けて分かり易い言葉遣いと聞き取りやすいスピードに配慮した。

配信するビデオでは、1つの画面上に画像情報と合わせて文字情報を加え、双方を同時にみることでより理解が促進するような工夫をした(図 5.3-9)。また、モニターが見たい講義資料やビデオ画像がすぐに取り出せるように主要となるキーワードを INDEX としてあげ(表 5.3-2、表 5.3-3)、キーワードを説明する講義資料ページとビデオ画像が始まるようにリンクを貼った。

その他、クイズ形式(毎回のテーマに10問)で理解度を確認するなどモニターが飽きないように工夫した(図 5.3-11)。

表5.3 - 2 外出支援シリーズ INDEX

INDEX	「外出支援シリーズ」	
1	第1回 車椅子編	第2回 杖編
2	外出の目的	外出の目的
3	外出経路の確認	杖の種類
4	体調の確認	杖の準備
5	持ち物	杖歩行の練習と介助：3点歩行
6	車椅子の種類	杖歩行の練習と介助：2点歩行
7	車椅子の各部名称	手すりを使った階段の上り下り練習
8	車椅子のたたみ方・広げ方	外出の準備：体調・経路の確認
9	車椅子の点検	外出の準備：靴を選ぶ
10	外出の準備	外出の準備：出発する
11	自動車への乗り降り	歩行介助の仕方：手すりのない階段
12	車椅子から車への移乗	歩行介助の仕方：溝を越える/休憩
13	車椅子から車への移乗：続き	歩行介助の仕方：他者とのすれ違い/交差点
14	車から車椅子への移乗	歩行介助：建物の中
15	車から車椅子への移乗：続き	外出の意義
16	車椅子の操作：砂利道・坂道	帰宅後の確認
17	車椅子の操作：段差	一人で歩ける人の介助
18	車椅子の操作：その他	一人で歩ける人の介助：続き
19	お店での注意	シルバーカーの利用
20	お店での注意：続き	外出支援の目的
21	帰宅後の確認	監修・制作
22	福祉自動車	
23	車両協力・シューズ協力	
24	監修・制作	

表5.3 - 3 住宅環境シリーズ INDEX

INDEX	「住宅環境シリーズ」	
	第1回 住宅改善編	第2回 住宅環境編
1	住宅改善の例	登場人物の紹介
2	住宅改善にあたって	玄関の住宅環境
3	玄関周り・門の出入り確認	玄関 - 下駄箱
4	確認のポイント1	玄関 - 玄関・玄関マット
5	浴室の確認 (1)	台所の住宅環境
6	浴室の確認 (2)	台所 - 湿気を防ぐ
7	確認のポイント2	台所 - 換気扇・コンロ
8	PTによる動作の確認	台所 - 食堂のカーテン・窓
9	トイレの確認	住宅環境の整理にあたって
10	玄関の確認	居室の住宅環境
11	改修案・改善案の確認	居室 - 整理整頓
12	改修案決定後の段取り (1)	居室 - 換気・高いところへの収納
13	改修案決定後の段取り (2)	居室 - 湿気を防ぐ
14	安全対策の基本	居室 - 掃除機のかけ方
15	段差・手すりの改善ポイント	居室 - 掃除機のかけ方：続き
16	改修例：アプローチ	居室 - コンセント・電化製品
17	改修例：玄関	ワンポイントアドバイス：換気
18	改修例：廊下・階段	ワンポイントアドバイス：結露
19	改修例：トイレ (1)	ワンポイントアドバイス：カビ
20	改修例：トイレ (2)	ワンポイントアドバイス：ダニ
21	改修例：その他	ワンポイントアドバイス：収納
22	改善後	まとめ
23	まとめ	監修・制作
24	監修・協力・制作	

<p>外出支援シリーズ</p>	 <p>大学生協店舗を利用したの撮影</p>	 <p>路上での撮影</p>
<p>住宅環境シリーズ</p>	 <p>一般のお宅を借りての撮影(居間)</p>	 <p>一般のお宅を借りての撮影(トイレ)</p>
	 <p>在宅実習室での撮影</p>	 <p>映像をモニターで確認している様子</p>

図5.3 - 3 撮影風景

(3) ビデオ収録と配信日程

2003 年度のビデオ収録と配信日程は、以下のとおりである。

ビデオ 1 外出支援：車椅子編

9/ 3(水)収録 1 回目(業者)
9/ 4(木)収録 2 回目(業者)
10/ 9(木)素材ハンドオフ(業者 S01)
10/31(金)モニターへの開示開始

ビデオ 2 外出支援：杖編

9/ 9(火)収録 1 回目(業者)
9/10(水)収録 2 回目(業者)
10/23(木)素材ハンドオフ(業者 S01)
11/ 8(金)モニターへの開示開始

ビデオ 3 住宅環境：住宅改修編

10/24(金)収録 1 回目(業者)
11/28(金)収録 2 回目(業者)
1/26(金)素材ハンドオフ(業者 S01)
2/11(水)モニターへの開示開始

ビデオ 4 住宅環境：住宅環境編

12/27(土)収録 1 回目(業者)
12/28(日)収録 2 回目(業者)
1/29(金)素材ハンドオフ(業者 S01)
2/11(水)モニターへの開示開始

ビデオ 3・4 オープニング・エンディングタイトル

2/ 4(水)素材ハンドオフ

なお、2002 年度のビデオ(e-専門家スキルアップ講座へのお誘い)の配信はそのまま継続している。

(4) ビデオ学習のプロセス

モニターは、ID とパスワードを入力し「外出支援シリーズ」や「住宅環境シリーズ」のビデオにアクセスし、ステップに沿ってビデオ学習、クイズ、アンケートの順で学習する(図 5.3 - 7 ~ 図 5.3 - 14)。外出支援シリーズのビデオ学習では、シングル画面だけでなく、マルチ画面によるポイント学習を追加した(図 5.3 - 10)。

クイズ回答、アンケート回答方法は、全シリーズ共通とした。

(5) アクセス支援隊などの活動状況

パソコンはあるが、ビデオを見ることができない人のためにパソコンの相談あるいはパソコンの環境設定の支援を行なうために、アクセス支援隊を組織した。実際の活動内容として「メディアプレイヤーでビデオが開かない」などの相談があり、その支援を行なった。さらに e-ケアタウンプロジェクトへ「痴呆のはじまりのような感じだが、どう判断してよいか」という相談があり、それに対応した。

e-専門家スキルアップ講座



2004.02.11 - 第3シリーズ「住宅環境」開講!

本サイトは、ヘルパー2級の資格をお持ちの介護の専門家を対象とした教育コースを、厚労省独立行政法人高齢保健推進機構から実験的に配信しているサイトです。

インターネットを利用したビデオのみで学習する「ビデオ学習コース」と、ビデオ学習の後、遠隔講義、実技実習、レポート提出を含む「実技研修コース」の二種類があり、実技研修コースの受講者には修了書が発行されます。

ちょっとした時間を利用したスキルアップを図りたいヘルパーの方、また、資格をお持ちでない方も、日ごろの介護のノウハウを身に着けるためにご活用ください。

第1シリーズは「入浴介護」をテーマに平成15年2月10日より開講しました。
第2シリーズは「外出支援」をテーマに平成15年10月31日より開講しました。
第3シリーズは「住宅環境」をテーマに平成16年2月11日より開講しました。

まずは、ビデオ視聴のテストもかねて、「[e-専門家スキルアップ講座へのお話し](#)」をご覧ください。

[いずれのコースも受講者登録\(無料\)を行ってください。](#)

(注:入浴介護1回目以外のビデオは登録された方のみ視聴可能となります。)

- [専門家スキルアップ講座プログラムとは?](#)
- [e-ケアタウンプロジェクトとは?](#)
- [ビデオをご覧になるために必要な環境](#)
- [お役立ちリンク集](#)

図5.3 - 4 e-専門家スキルアップ講座の紹介ページ

■ e-専門家スキルアップ講座へのお誘い



☞ 資料・ビデオはこちらからどうぞ(約5分)

プログラムの教材開発を担当している慶應大学看護医療学部の金子仁子氏が、専門家スキルアップ講座プログラムの紹介および入浴介護シリーズをご説明します。

■ e-専門家スキルアップ講座「住宅環境シリーズ」全2回

～高齢者に安心して暮らしていただくために～

住宅環境
シリーズ

第1回:住宅改善編 **NEW**

老後を自宅で過ごすことを希望している高齢者が増えるに伴い、お年寄りや障害を持つ方が安心して自立した生活を送ることができる住環境の整備・改善が社会的な課題になっています。このビデオでは、高齢者が住む住環境について学びます。第1回は、「住宅改善」です。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

第2回:住宅環境編 **NEW**

日々の生活の中で、健康と安全を考えると清潔で整理整頓の行き届いた環境を維持することが大切です。第2回では「住宅環境」に関して、日常できるちょっとした注意などについて学びます。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

■ e-専門家スキルアップ講座「外出支援シリーズ」全2回

～高齢者に安心して外出していただくために～

外出支援
シリーズ

第1回:車椅子編

外出は筋力の衰えを防ぎ、気持ちに張りを持たせ、精神面を豊かに保つ大切な生活活動です。このシリーズでは高齢者の外出支援の基本を学びます。第1回は、「外出のための準備、車椅子での外出支援方法」です。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

第2回:杖編

第2回は、特に杖をつけて出かける高齢者の外出介助の基本を学びます。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

■ e-専門家スキルアップ講座「入浴介護シリーズ」全4回

～高齢者に気持ちよく入浴していただくために～

入浴介護
シリーズ

第1回:入浴準備編

人間にとって入浴は身体の清潔を保つだけでなく、気分をリフレッシュしたりするために重要な生活の一部です。この入浴準備編では、高齢者の入浴を介助する時の基本を学びます。

第2回:入浴基本編

入浴基本編では、日常生活は一人で困らない、「見守り」が必要な人の入浴介護方法を学びます。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

第3回:入浴応用編1

この回では、応用編として、片麻痺のある人の介護方法を学びます。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

第4回:入浴応用編2

この回では、介護する方の様々な症状に応じて、胃ろうのある人の介護方法、ストーマのある人の介護方法、褥瘡のある人の介護方法を学びます。
この回のビデオ視聴には受講者登録が必要です。

図5.3-5 e-専門家スキルアップ講座メニュー



図5.3 - 6 e-専門家スキルアップ講座へのお誘い

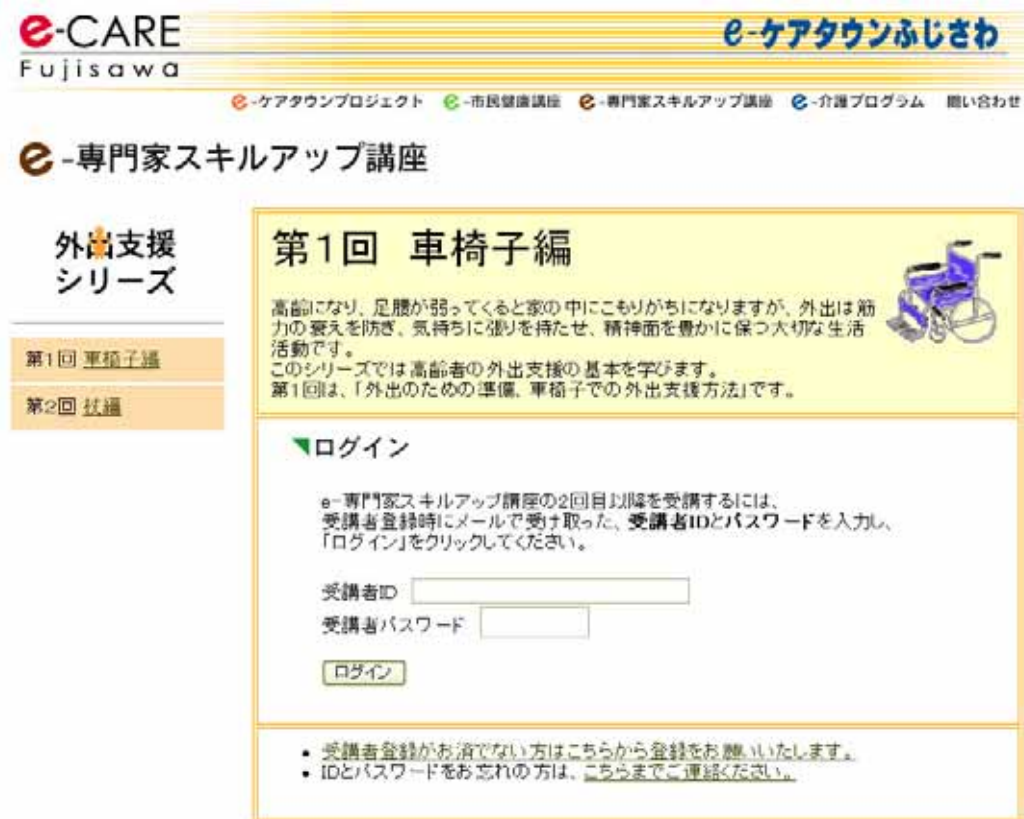


図5.3 - 7 外出支援シリーズ第1回車椅子編ログインページ

e-専門家スキルアップ講座

外出支援
シリーズ

第1回 車椅子編

第2回 杖編

第1回 車椅子編



高齢になり、足腰が弱ってくると家の中にもりがちになりますが、外出は筋力の衰えを防ぎ、気持ちに張りを持たせ、精神面を豊かに保つ大切な生活活動です。
このシリーズでは高齢者の外出支援の基本を学びます。
第1回は、「外出のための準備、車椅子での外出支援方法」です。

e-専門家スキルアップ講座「外出支援シリーズ」の第1回目では、次のステップに沿って学習を進めてください

- ▼ STEP-1. ビデオを見る
ビデオと資料はこちらからご覧ください(約20分)
- ▼ STEP-2. マルチアングルでポイントを確認する
[マルチアングルビデオはこちらからご覧ください](#)
- ▼ STEP-3. クイズに解答する
ビデオを見終わったら、クイズで理解度をチェックしましょう。
- ▼ STEP-4. アンケートに答える
[今後のプログラムの充実のためにアンケートにご協力ください。](#)

お疲れ様でした - これで第1回目の学習は終了です。

図5.3 - 8 外出支援シリーズ第1回車椅子編ページ

e-CARE
Fujiisawa

- ☑ e-ケアタウン
- ☑ e-スキルアップ
- ☑ 外出支援シリーズ
- ☑ 問い合わせ

INDEX

- 1 「外出支援シリーズ」第一回 外出のための準備、車椅子での外出支援方法
- 2 外出の目的
- 3 外出時間の確認
- 4 往路の確認
- 5 持ち物
- 6 車椅子の準備
- 7 車椅子の重量確認
- 8 車椅子のため息・助け方
- 9 車椅子の点検
- 10 外出の準備
- 11 目的地への声かけ
- 12 車椅子から降りるの準備
- 13 車椅子から降りるの準備・確認
- 14 車椅子から降りるの準備・確認
- 15 車椅子の持ち上げ・降ろし
- 16 車椅子の持ち上げ・降ろし
- 17 車椅子の持ち上げ・降ろし
- 18 車椅子の持ち上げ・降ろし
- 19 お店での注意
- 20 お店での注意・確認
- 21 帰宅時の確認
- 22 帰宅時の確認
- 23 車椅子のメンテナンス
- 24 製作・制作

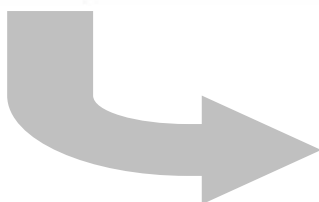
STEP-1. ここをクリックしてビデオを開始

ビデオが終了したら、このウィンドウを閉じて「STEP-2. マルチアングルでポイントを確認する」にお進みください。

「外出支援シリーズ」第一回
外出のための準備、車椅子での外出支援方法



クリックするとビデオが流れます。



e-ケアタウンふじさわ

e-専門家スキルアップ講座
「外出介護シリーズ」第1回目 車椅子編

図5.3 - 9 外出支援シリーズ第1回車椅子編（シングルアングル）

e-専門家スキルアップ講座

STEP-2. マルチアングルでポイントを確認する

■ このウィンドウを閉じる ■

「外出支援」第1回 車椅子編

様々な方向からの映像もご覧いただき、細かいところをチェックしてください。

1

車椅子のたたみ方

■ ご覧になりたいアングルをクリックして映像開始してください。



メインアングル



前からのアングル

2

車椅子の拡げ方

■ ご覧になりたいアングルをクリックして映像開始してください。



メインアングル



前からのアングル

3

ベッドから車椅子へ

■ ご覧になりたいアングルをクリックして映像開始してください。



メインアングル



前からのアングル



側からのアングル



図5.3 - 10 外出支援シリーズ第1回車椅子編（マルチアングル）

e-専門家スキルアップ講座

「住宅環境」第1回 理解度チェッククイズ

■ このウィンドウを閉じる ■

■ 以下の設問について、正しいと思うものを選択し、最後に「提出」ボタンをおしてください。

設問1. ヘルパーは高齢者と接する中で、日常生活で何に困っているか注意を払いましょう。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問2. 高齢者の住宅の改修を行ったとき、生活で考えられることを選んでください。

- 日常生活の安全は確保できない。
 ○高齢者が自分でできるが増える。
 ○活動の範囲が狭まる。
 ○生活の精神面は変わらない。

設問3. 高齢者はすり足で歩いていることが多くなり、ご本人も注意するので段差でつまずくことはなくなります。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問4. 高齢者が立ち上がる時には足に負担がかかるので、安定して立ち上がるようにイスは膝より低いものがよいでしょう。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問5. 住宅の改修を考えるとときは、高齢者が日常の生活で行っている動作を一通り見せてもらいましょう。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問6. 小さな段差はくさびで傾斜を作りましょう。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問7. 廊下や階段には足元灯をつけましょう。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問8. 車椅子を使っている場合、トイレの出入りは開閉式のドアがスムーズです。

- 正しい
 ○×-誤っている

設問9. 住宅改修の流れとして、適切なものを選んでください。

- ケアマネージャーに相談し、すぐに業者に改修を依頼してもらう。
 ○理学療法士に改修の相談をするときは、高齢者が困っていることだけを伝える。
 ○本人の希望によって改修案の変更があったときには、すぐに変更する。
 ○設計図と見積もりは、本人と家族に十分確認してもらう。

設問10. 介護保険では、住宅改修費が20万円まで支給されます。

- 正しい
 ○×-誤っている

図5.3 - 11 クイズページ

e-専門家スキルアップ講座

「住宅環境」第1回目
理解度チェッククイズ 採点結果

おめでとうございます! 全問正解です!

誤った箇所はもう一度資料やビデオをみて復習してください。
また、何度でも挑戦してください。

No.	設問	結果	復習用資料
第1問	ヘルパーは高齢者と接する中で、日常生活で何に困っているか注意を払いましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド3 枚目
第2問	高齢者の住宅の改修を行ったとき、生活で考えられることを選んでください。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド1 枚目
第3問	高齢者はすり足で歩いていることが多くなり、ご本人も注意するので段差でつまづくことはなくなります。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 16枚目
第4問	高齢者が立ち上がる時には足に負担がかかるので、安定して立ち上がることができるようにイスは膝より低いものがよいでしょう。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 22枚目
第5問	住宅の改修を考えるときは、高齢者が日常の生活で行っている動作を一通り見せてもらいましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド5 枚目
第6問	小さな段差はくさびで傾斜を作りましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 16枚目
第7問	廊下や階段には足元灯をつけましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 19枚目
第8問	車椅子を使っている場合、トイレの出入りは開閉式のドアがスムーズです。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 21枚目
第9問	住宅改修の流れとして、適切なものを選んでください。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 12枚目
第10問	介護保険では、住宅改修費が20万円まで支給されます。	○	e-専門家スキルアップ講座 「住宅環境」第1回スライド 13枚目
合計得点		10点	(10点満点)

図5.3 - 12 クイズ採点結果ページ（全問正解）

e-専門家スキルアップ講座

「住宅環境」第1回目
理解度チェッククイズ 採点結果

あなたは10問中 5問 正解しました

誤った箇所はもう一度資料やビデオをみて復習してください。
また、何度でも挑戦してください。

No.	設問	結果	復習用資料
第1問	ヘルパーは高齢者と接する中で、日常生活で何に困っているか注意を払いましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド3枚目
第2問	高齢者の住宅の改修を行ったとき、生活で考えられることを選んでください。	×	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド1枚目
第3問	高齢者はすり足で歩いていることが多くなり、ご本人も注意するので段差でつまずくことはなくなります。	×	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
第4問	高齢者が立ち上がる時には足に負担がかかるので、安定して立ち上がることができるようにイスは膝より低いものがよいでしょう。	×	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド22枚目
第5問	住宅の改修を考えるときは、高齢者が日常の生活で行っている動作を一通り見せてもらいましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
第6問	小さな段差はくさびで傾斜を作りましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
第7問	廊下や階段には足元灯をつけましょう。	○	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
第8問	車椅子を使っている場合、トイレがスムーズです。	×	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
第9問	住宅改修の流れとして、適切な順序を教えてください。	×	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
第10問	介護保険では、住宅改修費が支給されます。	×	e-専門家スキルアップ講座「住宅環境」第1回スライド16枚目
合計得点			



図5.3 - 13 クイズ採点結果ページ（不正解あり）

e-専門家スキルアップ講座

「住宅環境」 第1回目ビデオ アンケート回答フォーム

■ このウィンドウを閉じる ■

■ 今回のビデオに関して、以下の設問に回答し、「提出」を押してください。

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？

- はい
- いいえ
- わからない

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？

- はい
- いいえ
- わからない

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？

- はい
- いいえ
- わからない

設問4. 複数の方向からの映像は理解を助けましたか？

- はい
- いいえ
- わからない

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？

- はい
- いいえ
- わからない

設問6. 今回のビデオ内容、あるいは学習方法について良かった点をお書きください。

設問7. 今回のビデオ内容、あるいは学習方法について改善点をお書きください。

設問8. ビデオを見て、印象に残った点、疑問点、今後取り上げてほしいテーマなど、自由に感想をお書きください。

図5.3 - 14 アンケートページ

e-専門家スキルアップ講座

■ アンケート結果

- 入浴: 第1回ビデオアンケート
- 入浴: 第2回ビデオアンケート(マルチアングルあり)
- 入浴: 第3回ビデオアンケート(マルチアングルあり)
- 入浴: 第4回ビデオアンケート

- 外出: 第1回ビデオアンケート(マルチアングルあり)
- 外出: 第2回ビデオアンケート(マルチアングルあり)

- 住宅: 第1回ビデオアンケート(マルチアングルあり)
- 住宅: 第2回ビデオアンケート(マルチアングルあり)

■ 学習状況確認

- 入浴介助
- 外出支援
- 住宅環境

■ 視聴数

- 入浴介助
- 外出支援
- 住宅環境

図5.3 - 15 モニターの学習状況等管理者用画面

■ 外出支援 - アンケート結果

タイトル : ビデオ 第1回目
集計期間 : 03/31/2004~03/01/2004 14:54:33
回答数 : 6人

■ 集計結果

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



はい 6人 (100%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



はい 6人 (100%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



はい 5人 (83%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 1人 (17%)

図5.3 - 16 管理者用画面(アンケート結果)

e-専門家スキルアップ講座
学習状況確認

- L: ログイン回数
- V: ビデオ視聴回数
- M: マルチアングルビデオ視聴回数
- Q: クイズ回答回数/最高得点
- S: アンケート回答

#	ID	氏名	パスワード	1回目					2回目				
				L	V	M	Q	S	L	V	M	Q	S
1	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
2	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
3	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
4	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
5	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
6	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
7	■■■■■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
8	■■■■■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
9	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
10	■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
11	■■	■■■■	■■■■	30	23	0	0/-	未	4	9	0	4/9	未
12	■■■■■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未
13	■■■■■■■■	■■■■	■■■■	0	0	0	0/-	未	0	0	0	0/-	未

図5.3 - 17 管理者用画面(学習状況確認)

■ 専門家スキルアップ講座: 外出支援 - ビデオアクセス数

as of 03/08/2004 12: 0

合計: 774



回	タイトル	数	グラフ
01	外出支援第1回(車椅子編)	559	
02	外出支援第2回(杖編)	215	

図5.3 - 18 管理者用画面(ビデオアクセス数) 2004年3月8日時点

5.3.4.2 次世代 IPv6 インターネットを用いた遠隔講義

(1) 遠隔講義実施内容

ビデオ学習を強化する事を目標とし、プランした。特に「外出支援」については実際に業務を行なっているヘルパーを対象とし、より実践に役立つことを目的に「講義 - 実技体験 助言 講義」という学習ステップで確実にスキルの向上を狙った。今回は、対面研修ではなく、研修生が参加しやすい場所（ヘルパーステーション）や公民館とeケア・スタジオを結んで遠隔講義・実技を行った。

遠隔講義・実技実習当日は、具体的なスケジュールを研修生に配布した。研修終了後、インタビューに参加できる研修生を募った。

なお、本来遠隔講義に参加する研修生は、事前に受講者登録を Web 上ですることになっているが、ビデオの配信の期間が短かったことや、研修生の使用しているパソコンが事業所・公民館等といった公共の場の物であるため、IDの取得が難しかった。そこで、遠隔講義の際に ID とパスワードを配布した。その時に Web 上の、受講者登録を紙媒体で配布し回収した。なお、御所見公民館での遠隔講義では、紙媒体の受講者登録を配布するのに手違いがあったため、後日郵送し、研修生から返送してもらった。

外出支援シリーズ

ア) 研修生の募集

ビデオ学習を修了した研修生が1名しかいなかったため、遠隔講義を実施してもらえる藤沢市内のヘルパーステーションに協力を依頼した。そのヘルパーステーションに勤務しているヘルパーやドライバーにも遠隔講義の参加を募った。

イ) 講義概要

遠隔講義は12月13日（土）の13:30～16:30に、藤沢市内のヘルパーステーション（1か所）とeケア・スタジオを結んで行なった。参加数は7人であり、男性4人、女性3人であった。職種はヘルパーやドライバーなどであった。年齢は年配者がほとんどであった。講義会場はヘルパーステーションの事務所内約30㎡で、3分の1の情報コーナーといわれる空間を利用した。

講義は、「講義 - 実技研修 助言 講義」で行なった。内容は、外出支援の意義・目的・留意点、外出の方法と成果について介護福祉士であり社会福祉士でもある中田光彦講師が講義を担当した。実技研修と助言と講義を理学療法士の大石浩子講師が担当した。実技研修では、研修生がヘルパー役と利用者役を担い、杖歩行の介助を行なった。杖歩行介助では、普段介助の頻度が少なく、しかも確実な知識と実技を得られにくいこと、ヘルパーステーションが狭い会場であることを考慮し、2点歩行・3点歩行の実技を実施した。その模様をカメラで写し、理学療法士が助言した。理学療法士の講義内容は、片麻痺などの障害（ヘルパーがよく介護すると予想される）別による車椅子・杖歩行の介助方法について実演も兼ねながら行なった。

ヘルパーステーションとeケア・スタジオをカメラで互いに写して行なった。プラズマテレビを媒体として、講義は、講師を映しているシングル映像とパワーポイントの映像を写しながら、すすめていった。パワーポイントの映像が途絶えることも想定して、研修生のいる会場に予備のパソコンを準備し、不測の事態に備えた。実技の助言や実演についてはマルチ画面を使用し、より具体的に研修生に伝わるように工夫した。

二人の講師の話が終了した後、休憩をとり、質疑応答を設け、ビデオと講義の内容や業務の場面も含め、車椅子や杖歩行の介助の際に、困っている点や疑問点についてヘルパーから意見を出してもらい、それに二人の講師が回答していった。場合によっては、実技も含めて回答した。

ウ) 会場

遠隔講義の会場は、ヘルパーステーション事務所で通称「情報コーナー」と呼ばれている資料や物品の展示の空間を利用し会場を設営した。会場の見取り図を示す。（講義中の配置は図 5.3 - 19、実技中の配置は図 5.3 - 20 である。）

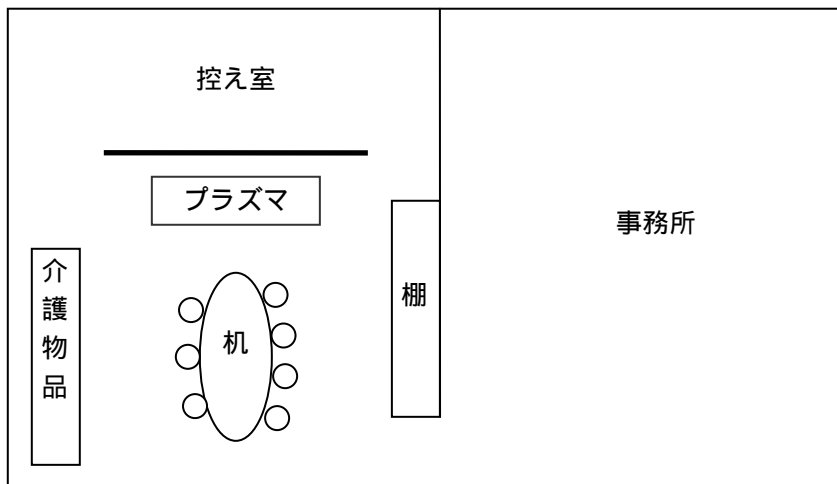


図5.3 - 19 ヘルパーステーションにおける外出支援遠隔講義会場図（講義中）

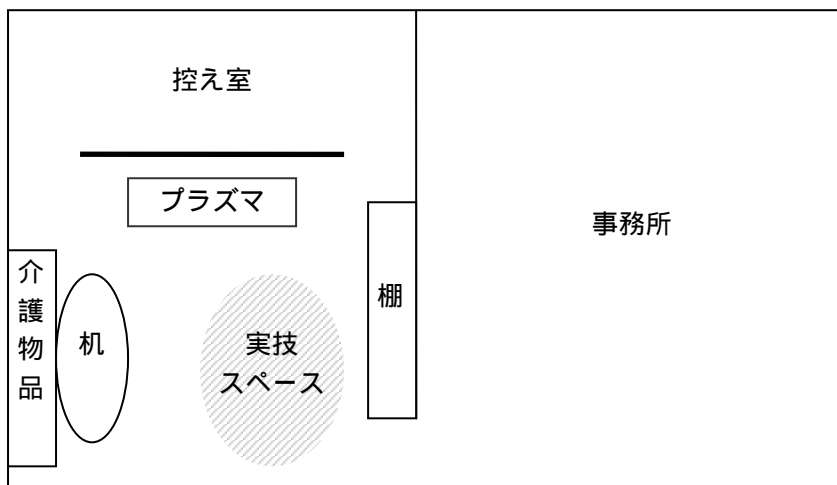


図5.3 - 20 ヘルパーステーションにおける外出支援遠隔講義会場図（実技中）

I) 研修生の反応・会場の雰囲気

いつも通勤している事業所で行なったこともあり、研修生は和んだ雰囲気で行なっていた様子が伺えた。講義の時は、大画面のプラズマテレビを使用していたので、会場の広さと7人という研修生の人数から画面の大きさは適切であった。講師の話の聞きながら、パワーポイントも見ることができたので、とてもわかりやすかった。講師のいるスタジオと研修生がいる事業所の場面が同時に画面に映るので、距離感がなく聞きやすかった一方で、講師の視線が研修生の方に向いていないことが多く、研修生にとっては違和感があったようであった。

実技において、研修生は、楽しく和気藹々と積極的に参加していた。自ら実技を行ない、スタジオの講師と意見交換ができたので、良かった点や改善する点が明確になり理解しやすいものになった。しかし、狭い事業所内の机を寄せて実技を行ったためスペース的には限界があった。

わ)外出支援シリーズ遠隔講義の研修生のビデオ学習状況

通常なら、Web上でモニター登録を行なうが、今回の遠隔講義では、講義の際にIDとパスワードを配布した。そして後ほど、モニター登録時のアンケート用紙を渡し、回収した。研修生の全員からモニター登録時のアンケート用紙が得られず、再度ヘルパーステーションの事務所からまだ回収できていない研修生へモニター登録時のアンケート用紙を配布してもらった。

3月8日の段階で回収できたのは、研修生の7人のうち4人であった。4人のうち、外出支援シリーズ車椅子編、杖編を視聴したのは1人であった。

住宅環境シリーズ

ア)研修生の募集

住宅環境シリーズは、ビデオ配信が2月11日であり、その3日後に住宅環境シリーズ遠隔講義を開講した。そのため、ビデオ学習を終了している人は0名であった。公民館の介護予防教室の教育プログラムの一環として住宅環境シリーズ遠隔講義を組み込んでもらい、一般市民の知識の普及をはかることも行なった。さらに公民館から民生委員にも参加を呼びかけてもらった。

イ)講義概要

遠隔講義は2月14日(土)の13:30~16:30に、藤沢市御所見公民館(以下、公民館)とeケア・スタジオを結んで行なった。研修生は、公民館が主催する介護教室受講生15人、民生委員12人の合計27人であった。その他に、公民館職員2人、社会福祉協議会職員2人が参加した。

ここでは、会場が広いのでプロジェクターを使用して画面を拡大し、講義を進めていった。また、研修生の人数が多いため会場に数本マイクを用意し、アルバイトの学生にマイク係を担当してもらい、研修生からの意見や感想に備えた。

今回のプログラムでは、Webでのビデオ配信が時期的に遅かったことを鑑み、会場で「住宅改善編」のビデオを視聴してから講義を行った。講師は、住宅改善の分野で研究と教育をつんでいる国立保健科学院健康住宅室長の鈴木晃氏であった。講義内容は、「高齢者の自立支援と住まいの工夫 - 介護保険の「住宅改修」をどう活用するか」であった。前回の外出支援の遠隔講義の結果を生かし、講師の目線をカメラ目線にし、研修生に話しかけているような画面にした。パワーポイントを活用し、パワーポイントの画面を講師が指示しながら、講義ができるようにした。そのため、研修生は違和感なく講義を聞くことができた。次に質疑応答に移り、研修生の意見や講義・ビデオの感想、疑問点を述べてもらった。研修生からは、時間が迫っているにも関わらず活発な意見が出され、講師との意見交換もマイク係によって時間の無駄もなく円滑に進めることができた。

ウ)会場

遠隔講義では、公民館3階を使用した大会場を使用した。会場の広さは縦26.7m、横10.5mであり、ステージのスクリーンからステージの研修生側の端までの長さは7mである。遠隔講義では会場の前3分の2を使用した。会場の見取り図を図5.3-21示す。

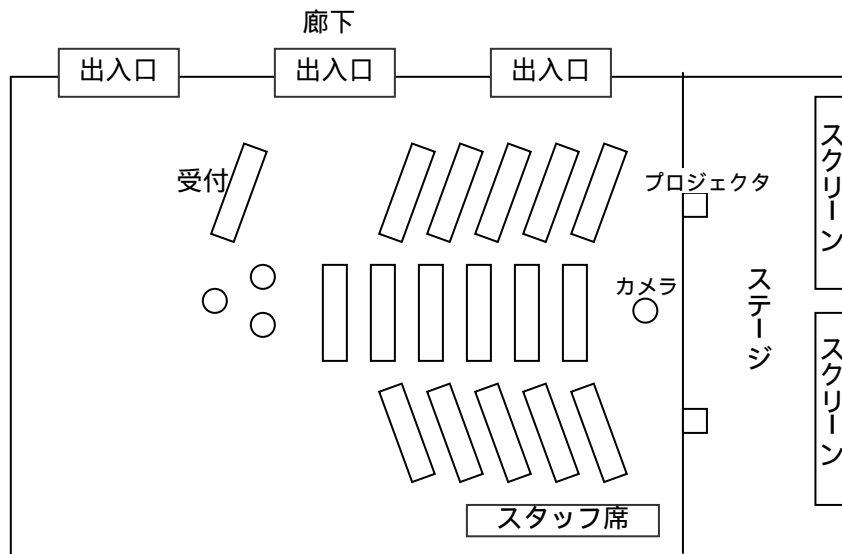


図5.3 - 21 公民館における住宅環境シリーズ遠隔講義の会場図

1) 研修生の反応・会場の雰囲気

研修生は、皆熱心にビデオを視聴しており、相談窓口の画面が出たときなどメモを取っていたり、近隣の参加者と内容について確認しあう様子があり和やかな雰囲気であった。時折、ビデオの音声や画面がスタジオ中継との兼ね合いで不具合を起こすこともあったが、一時的なものですぐに修正され、それについての不満の声はなかった。

講義中の画面の調整について述べる。最初に公民館会場スクリーンの画面で、講師の視線が向いていない、講師が自分の資料をさす時に画面からいなくなってしまう、研修生はスライドなどにうなずいて聞いているが視線が合っていないような感じもあった。またある研修生から「視線が合わず、一方的に講義をしている感じ」という言葉が聞かれた。そこで、eケア・スタジオと連絡をとり、カメラの位置をスタジオの講師が見るモニターに近い位置に移動し、講師の視線が研修生となるべく合うように調整した。また講師が資料をさす時には、公民館のスクリーンに、講師の位置と資料をさしている様子が、会場の研修生からもわかるようにeケア・スタジオ全体と、資料の2つの画面をスクリーンに映すようにした。

調整後、公民館会場のスクリーン上で講師の視線が研修生のほうを向くようになった。さらに、休憩をはさんだ講義の後半では、視線が研修生に向くようにeケア・スタジオの講義テーブルの端に座っていた講師の位置を真中に変えた。それによって、御所見公民館会場スクリーンの画面上で、研修生と講師視線が近くなった。

また、講義中の音声の調整をした。会場は、遠隔講義の事前の設備のチェックのとき、公民館という公共の施設であるため、他の団体が使用していて、音声の調整が出来なかった。そのため、講義の最初は講師の声は音が飛ぶような感じであった。休憩時間に、設備の調整で音のコントロールをした。その他に、講義終了後に会場から聞かれた研修生の意見としては、「たとえの話が多かったので教科書的でなく心に残った。」「最初雑音が入ってききにくかった。」「93歳のおばあさんが同居している。手すりをつけたが、台所にはいづってくる。おふろのイスを買ったが邪魔で横にやっている。実践は難しい。」

わ) 住宅環境シリーズ遠隔講義研修生のビデオ学習状況

住宅環境シリーズ遠隔講義では、ビデオ配信期間が短かったので、ビデオを視聴している人は0人で

あった。そのため、遠隔講義の時にビデオ視聴のための ID とパスワードを渡し、モニター登録のアンケート用紙を研修生 27 名に郵送し（公民館職員、社会福祉協議会職員を除く）返送してもらった。3月12日の時点で回収できたのは16名である。うち2名は記載に不備があり、集計には含まない。3月8日の段階での遠隔講義研修生のビデオ視聴は、入浴介護シリーズ全編、外出支援シリーズ全編、住宅環境シリーズ全編を視聴した人は1人であった。住宅環境シリーズの住宅改善編のみ視聴した人は1人であった。

5.3.4.3 遠隔講義キット

必要機材の最小セットを検討し、下記の機材で構成した。

#	構成機材	型番など	稼動式ケースに含まれるもの
1	デジタルビデオ送信用 PC	5 インチベイ PC	
2	デジタルビデオ受信用 PC	5 インチベイ PC	
3	ワイヤレスマイクチューナーセット	SONY MB-806, SONY WRU-806、AN-820/2	
4	オーディオミキサー	ベリンガー MX882,	
5	エコーキャンセラー	ベリンガー DSP1124P	
6	デジタルカメラ	SONY VX-2000	
7	三脚	SONY/VCT-850RM	
8	無線・有線マイク	SONY/WRT-805S, SONY/ECM-44BMP	
9	ディスプレイ（モニター）		
10	ケース	アルモア 4U FRP D360mm キャスター付	

以下にキットの接続・構成図、および概観図を示す。

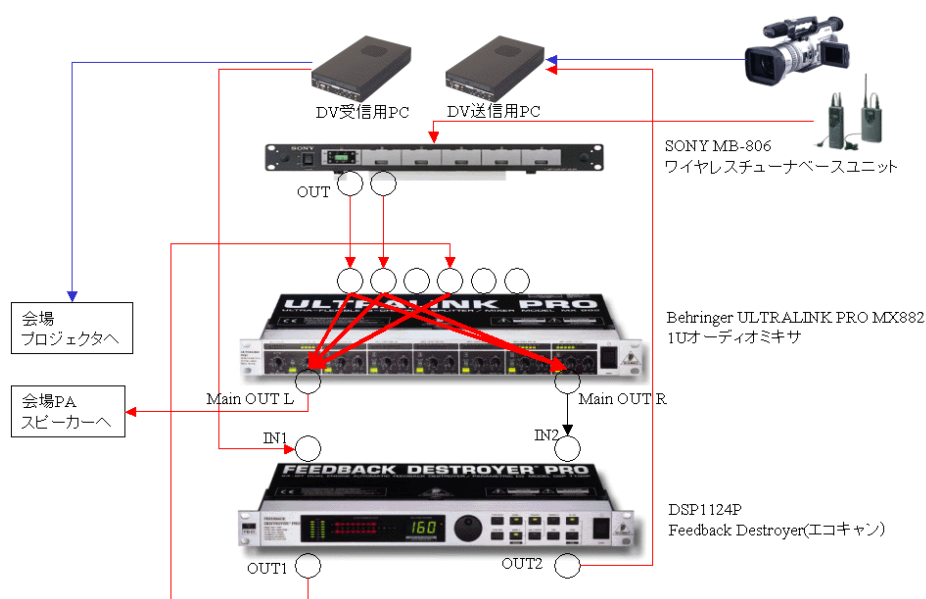


図5.3 - 22 遠隔講義キットの構成図



図5.3 - 23 遠隔講義キットの概観

本キットを用いて、5.3.2.2 で述べた 2 回の遠隔講義を実施した。測定結果は以下の表に示す。

		ケアステーション 2003年12月13日実施	公民館 2004年2月14日実施
1	設置にかかった人数と時間	約1時間×1名	約2時間×2名
2	設置場所に必要な広さ	約1メートル×1メートル	約1メートル×3メートル
3	撤収にかかった時間	約30分	約1時間

2 箇所の設置・撤収時間・人数の違いは、公民館（大規模施設）では、既存設備との接続および、参加者多数のためケーブルの養生などの時間が必要となったために生じたものである。

また広さの違いとしては、ケアステーションでは利用できる場所の広さに制限があったため、操作性を犠牲にしてディスプレイなどの台数を減らすなどし、最小構成としたが、場所的に余裕のある公民館では、操作性を最優先させた機材構成としたためである。ここでいう機材構成とは、遠隔講義 BOX

以外のオプションな部分を指す。

5.3.4.4 評価

(1) モニターのビデオ学習の状況

アクセス数

今年度のアクセスログ数は、e-ケアタウンのトップページは7,485件、スキルアップは2,277件であった(表5.3-4)。

表5.3-4 アクセスログ数

	e-ケアタウン	スキルアップ
2002年度	1,859	739
2003年度	7,485	2,277
合計	9,344	3,016

ただし、2003年9月から10月の間は正しいログが存在しないため含んでいない。

ビデオ視聴数

昨年度から今年度にかけてのビデオアクセス数は、「外出支援シリーズ」の車椅子編は、559件、杖編は215件、「住宅環境シリーズ」は住宅改善編が60件、住宅環境編が20件であった(表5.3-5)。

表5.3-5 ビデオ視聴数

		配信日	ビデオ アクセ ス数	ビデオ視聴者数			
				人数 (n=93)	%	うち複数回 視聴した人	
						人数 (n=93)	%
お誘い		2003/2/4	248	-	-	-	-
入浴介護	第1回 準備編	2003/2/10	402	-	-	-	-
	第2回 基本編	2003/2/17	459	14	18%	6	8%
	第3回 応用編1	2003/2/21	649	8	10%	2	3%
	第4回 応用編2	2003/2/28	67	11	14%	1	1%
外出支援	第1回 車椅子編	2003/10/31	559	16	20%	10	13%
	第2回 杖編	2003/11/8	215	5	6%	3	4%
住宅環境	第1回 改善編	2004/2/11	60	9	11%	3	4%
	第2回 環境編	2004/2/11	20	2	3%	0	0%

ビデオアクセス数：管理者用画面のビデオ視聴数。ビデオのファイルへ何らかの形でアクセスされたものをカウントしている。

ビデオ視聴者数：ビデオ開始をクリックしたモニターの数と総モニター数(66人)に占める割合。

モニター登録者について

モニターの登録数と属性を表5.3-6から表5.3-8に示す。昨年度からの累積モニター数は93人であった。このうちWeb上登録者51名、遠隔講義にあたり登録者42名（公民館27人、ヘルパーステーション15人）である。属性を見ると性別は、女性が33人、男性が22人であった。年齢は、40代が最も多く16人であり、次に50代の15人であった。職業はヘルパーが最も多く18人、次に無職8人、次に看護師、会社員がそれぞれ5人であった。住居地は神奈川県が最も多く40人であった。参加動機は、「日ごろの介護に役立てたい」が最も多く32人であり、次に「遠隔講義に興味がある」が9人と多かった。このプロジェクトを知った経路は、「藤沢市関係のホームページから」が11人と最も多かった。受講場所は自宅が28人、職場が13人であった。藤沢市のとの関係が「特になし」27人、「藤沢市在住」24人、「藤沢市在勤」9人であった。ヘルパー2級の有資格者は28人であった。介護の仕事をしている人は23人、身近な人を介護している人は6人であった。

表5.3-6 モニターの属性

属性		ヘルパーステーション		公民館		その他		合計	
		回答数 (n=15)	%	回答数 (n=27)	%	回答数 (n=51)	%	回答数 (n=93)	%
性別	男性	3	20%	5	19%	14	27%	22	24%
	女性	3	20%	9	33%	21	41%	33	35%
	無回答	9	60%	13	48%	16	31%	38	41%
年齢	10代	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	20代	1	7%	0	0%	4	8%	5	5%
	30代	0	0%	1	4%	5	10%	6	6%
	40代	2	13%	1	4%	13	25%	16	17%
	50代	0	0%	4	15%	11	22%	15	16%
	60代	3	20%	7	26%	1	2%	11	12%
	70代	0	0%	1	4%	0	0%	1	1%
	無回答	9	60%	13	48%	16	31%	38	41%
職業	ヘルパー	3	20%	0	0%	15	29%	18	19%
	看護師	1	7%	0	0%	4	8%	5	5%
	大学(院)生・専門学校生	1	7%	0	0%	2	4%	3	3%
	会社員	0	0%	0	0%	5	10%	5	5%
	公務員	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	個人営業・自由業	0	0%	2	7%	1	2%	3	3%
	主婦	0	0%	1	4%	1	2%	2	2%
	無職(休職中)	0	0%	6	22%	2	4%	8	9%
	農業	0	0%	4	15%	0	0%	4	4%
	その他	1	7%	1	4%	5	10%	7	8%
	無回答	9	60%	13	48%	15	29%	37	40%
居住地	神奈川県	6	40%	14	52%	20	39%	40	43%
	埼玉県	0	0%	0	0%	3	6%	3	3%
	静岡県	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%

	宮城県	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	石川県	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	愛媛県	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	鳥取県	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	福岡県	0	0%	0	0%	1	2%	1	1%
	無回答	9	60%	13	48%	22	43%	44	47%
参加 動機	日ごろの介護に役立てたい	5	33%	8	30%	19	37%	32	34%
	講座へのお誘い/第1回目を見て興味が出た	0	0%	3	11%	2	4%	5	5%
	遠隔講義受講に興味がある	1	7%	1	4%	7	14%	9	10%
	その他	0	0%	2	7%	6	12%	8	9%
	無回答	9	60%	13	48%	17	33%	39	42%

表5.3-7 モニターの属性(続き)

属性		ヘルパーステーション		公民館		その他		合計	
		回答数 (n=15)	%	回答数 (n=27)	%	回答数 (n=51)	%	回答数 (n=93)	%
知った 経路	慶應大学関係のホームページ	0	0%	0	0%	3	6%	3	3%
	藤沢市関係のホームページ	0	0%	3	11%	8	16%	11	12%
	プロジェクトのパンフレットを見て	1	7%	1	4%	6	12%	8	9%
	Webの検索エンジンから	0	0%	0	0%	7	14%	7	8%
	友人・知人から	1	7%	2	7%	4	8%	7	8%
	その他	4	27%	8	30%	8	16%	20	22%
	無回答	9	60%	13	48%	15	29%	37	40%
受講 場所	職場	3	20%	0	0%	10	20%	13	14%
	自宅	2	13%	2	7%	24	47%	28	30%
	その他	1	7%	6	22%	0	0%	7	8%
	無回答	9	60%	19	70%	17	33%	45	48%
藤沢市 との 関係	特になし	1	7%	0	0%	26	51%	27	29%
	藤沢市に住んでいる	0	0%	11	41%	13	25%	24	26%
	藤沢市で仕事をしている	5	33%	0	0%	4	8%	9	10%
	無回答	9	60%	16	59%	8	16%	33	35%
ヘルパ ー 資格	なし	3	20%	7	26%	19	37%	29	31%
	2級の資格あり	3	20%	1	4%	24	47%	28	30%
	無回答	9	60%	19	70%	8	16%	36	39%
実習 希望	しない	2	13%	8	30%	33	65%	43	46%
	希望する	3	20%	0	0%	10	20%	13	14%
	無回答	10	67%	19	70%	8	16%	37	40%

介護 との 関係	介護の仕事を専門として いる	4	27%	0	0%	19	37%	23	25%
	専門家ではないが身近な 人を介護している	0	0%	4	15%	2	4%	6	6%
	介護に興味がある	1	7%	9	33%	5	10%	15	16%
	その他	1	7%	1	4%	7	14%	9	10%
	無回答	9	60%	13	48%	18	35%	40	43%
合計		15	-	27	-	51	-	93	-

表5.3 - 8 モニターの属性（その他と回答した人の属性）

職業のその他	
	介護ドライバー
	専門学校講師
	団体職員
	理学療法士
参加動機のその他	
	ITとの関連性に興味がある
	介護者への資料として
	知識向上、自己学習
	勉強
知った経路のその他	
	セミナーのパンフレット
	介護事業所
	会社から
	係り付けの医師
	広報ふじさわを見て
	市役所の担当者の紹介
	事務スタッフから
	職場で
	神奈川県社会福祉会館内の掲示板
	神奈川県社会福祉協議会
	神奈川福祉用具展示場
介護との関係のその他	
	ケアマネ、ソーシャルワーカー
	介護関係の仕事を求職中
	看護と介護の仕事をしている
	高齢者福祉・介護保険等生活福祉を主たるテーマに調査・研究、ヘルパー2級については現在資格取得のため講座受講中
	在宅介護支援センター勤務
	神奈川県中高年実践就労講座福祉職場スタッフ受講

クイズの回答状況

各ビデオ終了後のクイズの回答状況は、表 5.3 - 9 のとおりで、外出支援シリーズの車椅子編の実行人数は 6 人、平均最高得点は 9.3 点で、杖編の実行人数は 4 人、平均最高得点は 8.8 点であった。住宅環境シリーズの住宅改善編の実行人数は 1 人、最高得点は 10.0 点で、住宅環境編の実行人数は 1 人、最高得点は 7.0 点であった。

表5.3 - 9 クイズ実行回数と成績

		(実行回数)	実行人数 (n=93)	最高得点の合計	平均最高得点	
入浴介護	第 2 回	基本編	19	9	44	4.9
	第 3 回	応用編 1	8	6	52	8.7
	第 4 回	応用編 2	8	6	53	8.8
外出支援	第 1 回	車椅子編	6	6	56	9.3
	第 2 回	杖編	5	4	35	8.8
住宅環境	第 1 回	改善編	1	1	10	10.0
	第 2 回	環境編	1	1	7	7.0

平均最高得点 = 最高得点の合計 / 実行人数

アンケート結果

Web上の管理者用画面で集計されたビデオ学習のモニターによるアンケートの結果を以下の図5.3 - 24 ~ 図5.3 - 31として、ビデオのシリーズごとに示す。

入浴介護シリーズ入浴準備編

集計期間：02/10/2003～03/08/2004 13:07:09

回答数：1人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



- はい 3人 (20%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)
- 無回答 12人 (80%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



- はい 3人 (20%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)
- 無回答 12人 (80%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



- はい 3人 (20%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)
- 無回答 12人 (80%)

設問4.【2・3・4回目の方のみお伺いします】

複数方向からの映像(マルチアングルでのポイントチェック)は理解を助けましたか？



- はい 0人 (0%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 1人 (7%)
- 無回答 14人 (93%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



- はい 3人 (20%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)
- 無回答 12人 (80%)

図5.3 - 24 アンケート結果 (入浴介護シリーズ入浴準備編)

入浴介護シリーズ入浴基本編

集計期間：02/17/2003～03/08/2004 13:07:36

回答数：2人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問4. 【2・3・4回目の方のみお伺いします】

複数の方向からの映像(マルチアングルでのポイントチェック)は理解を助けてくれましたか？



- はい 1人 (50%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)
- 無回答 1人 (50%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

図5.3 - 25 アンケート結果（入浴介護シリーズ入浴基本編）

入浴介護シリーズ入浴応用編 1

集計期間 : 02/24/2003 ~ 03/08/2004 13:07:52

回答数 : 3 人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



■ はい 3人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



■ はい 3人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



■ はい 3人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問4. 【2・3・4回目の方のみお伺いします】

複数方向からの映像(マルチアングルでのポイントチェック)は理解を助めましたか？



■ はい 3人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



■ はい 3人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

図5.3 - 26 アンケート結果 (入浴介護シリーズ入浴応用編 1)

入浴介護シリーズ入浴応用編 2

集計期間：03/01/2003～03/08/2004 13:08:25

回答数：4人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



■ はい 4人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



■ はい 4人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



■ はい 4人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

設問4. 【2・3回目の方のみお伺いします】

複数の方向からの映像(マルチアングルでのポイントチェック)は理解を助けましたか？



■ はい 2人 (50%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)
■ 無回答 2人 (50%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



■ はい 4人 (100%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)

図5.3 - 27 アンケート結果 (入浴介護シリーズ入浴応用編 2)

外出支援シリーズ車椅子編

集計期間：10/31/2003～03/08/2004 13:08:46

回答数：6人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



はい 6人 (100%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



はい 6人 (100%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



はい 5人 (83%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 1人 (17%)

設問4. 複数の方向からの映像(マルチアングルでのポイントチェック)は理解を助けてくれましたか？



はい 6人 (100%)
いいえ 0人 (0%)
わからない 0人 (0%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



はい 5人 (83%)
いいえ 1人 (17%)
わからない 0人 (0%)

図5.3 - 28 アンケート結果 (外出支援シリーズ車椅子編)

外出支援シリーズ杖編

集計期間：11/08/2003～03/08/2004 13:09:10

回答数：4人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



■ はい 3人 (75%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)
■ 無回答 1人 (25%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



■ はい 3人 (75%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)
■ 無回答 1人 (25%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



■ はい 3人 (75%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)
■ 無回答 1人 (25%)

設問4. 複数の方向からの映像(マルチアングルでのポイントチェック)は理解を助けたか？



■ はい 3人 (75%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)
■ 無回答 1人 (25%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



■ はい 3人 (75%)
■ いいえ 0人 (0%)
■ わからない 0人 (0%)
■ 無回答 1人 (25%)

図5.3 - 29 アンケート結果（外出支援シリーズ杖編）

住宅環境シリーズ住宅改善編

集計期間：02/11/2004～03/08/2004 13:09:25

回答数：2人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問4. 複数の方向からの映像は理解を助めましたか？



- はい 1人 (50%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 1人 (50%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



- はい 2人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

図5.3 - 30 アンケート結果（住宅環境シリーズ住宅改善編）

住宅環境シリーズ住宅環境編

集計期間：02/11/2004～03/08/2004 13:09:43

回答数：1人

設問1. 今回のビデオ学習で新しい発見はありましたか？



- はい 1人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問2. 今回のビデオ学習は楽しめましたか？



- はい 1人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問3. 今回のビデオは、今ご自分のスキルアップにつながると感じますか？



- はい 1人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問4. 複数の方向からの映像は理解を助けてくれましたか？



- はい 1人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

設問5. 今後もこのような形でインターネットによるビデオ学習を続けたいと思いますか？



- はい 1人 (100%)
- いいえ 0人 (0%)
- わからない 0人 (0%)

図5.3 - 31 アンケート結果（住宅環境シリーズ住宅環境編）

また、Web 上の管理者用画面で集計されたビデオ学習のモニターによるアンケートの自由記載をまとめたものを、表 5.3 - 10～表 5.3 - 12 に示す。

表5.3 - 10 アンケート結果（設問 6 ビデオ学習について良かった点の自由記述）

今回のビデオ内容、あるいは学習方法について良かった点をお書きください	
入浴介護・入浴準備編	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅でいつでも見られることは、非常に便利だと思いました。 ・湯温、室温の適温がわかって良かった。
入浴介護・入浴基本編	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオが自分の都合のよい時間にゆっくりと集中してみる事ができるのでしっかり頭の中に入る事が出来ます。ビデオの内容もとても丁寧に説明してあるので分かりやすいです。いろいろな方角から見る事が出来るのはとてもよかったです。 ・自宅で学習が出来た。
入浴介護・入浴応用編 1	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のビデオのような入浴介助方法を学ぶのは初めてでしたので、すべての事例に関してとても参考になりました。 ・入浴介護方法を全く知らなかったので、ビデオを見て大変役に立ちました。
入浴介護・入浴応用編 2	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう、ストーマ、褥創の入浴方法がよくわかりました。ひとつひとつ細かく説明されている所が良かったです。 ・音声解説が分かり易かった。 ・普段の研修等での説明では、なかなか理解しづらかったこれらの介助法が、このビデオではよく説明されており解りやすかったです。また繰り返し見ることのできる知識と自信を得ることが出来ました。 ・今回は全く知らなかったことが多かった。 大変役立ちました。
外出支援・車椅子編	<ul style="list-style-type: none"> ・よかった。 ・とても細かく分かりやすく説明してありましたので良かったです。 ・介助者の動作など確認したいところを何回でも観ることができる。 ・自宅で学習できる。
外出支援・杖編	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチアングルの短い映像が見やすかった。 ・講習を受ける前は、杖を悪い側に持つものと間違えて思っていました。
住宅環境・住宅改善編	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で学習出来る。文字だけでなく映像で見られる。
住宅環境・住宅環境編	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で学習できること。

表5.3 - 11 アンケート結果（設問7 ビデオ学習について改善点の自由記述）

今回のビデオ内容、あるいは学習方法について改善点をお書きください。	
入浴介護・入浴準備編	・映像を拡大すると右画面の文字がかすれて読みにくかった。
入浴介護・入浴基本編	-
入浴介護・入浴応用編1	・ビデオを見て今は覚えていても時間が経つと忘れてしまうので、ビデオかテキストで保存できれば確実に役立つと思う。体験したものは忘れにくいですが、一度見ただけでは忘れやすいと思う。
入浴介護・入浴応用編2	・マルチアングルのビデオがなかったのに質問があった。
外出支援・車椅子編	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し車椅子で通りにくい所を通る場面などをやってもらいたかったです。 ・映像が長いと見るのに疲れてしまう。 ・介助の仕事は大変ハードな仕事なので介助者側健康上で注意する点や動作上のポイント（特に腰痛上の注意上での足位置や移動、腕の使い方）なども入れた方がよいと思った。
外出支援・杖編	<ul style="list-style-type: none"> ・外出で歩道がないような危険な場所での介助を取り上げて欲しい。利用者が耳の不自由な方の場合車道側に立つとコミュニケーションがとり難い場合も入れて欲しい。 ・大きな人、重い人の歩行介助などいろいろな条件設定で学習できるといい。
住宅環境・住宅改善編	・右手足麻痺、左手足麻痺等症例毎にビデオを選択できればと思いました。
住宅環境・住宅環境編	・2画面の文字画面で文字がかすれて読みにくかった。

表5.3 - 12 アンケート結果（設問8 ビデオ学習についてその他の自由記述）

ビデオを見て、印象に残った点、疑問点、今後取り上げてほしいテーマなど、自由に感想をお書きください。	
入浴介護・入浴準備編	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅での入浴は、住環境によってやり方がずいぶん違うと思うので、多様な条件（狭い場合や洗い場・風呂桶の条件）にあわせて学習したい。 ・個人差がありますが、高齢者は乾燥肌になりやすいので、それに対するケアについても取り上げて欲しいと思いました。
入浴介護・入浴基本編	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的なことなのですがシャンプーハットを使って頭を洗う事が今までなかったので一度自分で使って使い心地をためてみたいと思いました。
入浴介護・入浴応用編1	<ul style="list-style-type: none"> ・車の乗降車介助。 ・とても、解りやすく勉強になりました。このような介助はまだ経験しておりませんが、今後の介護サービスにきっと役立つと思います。 ・間違った介護をしたときに予想される事故例等も例示して欲しいと思いました。
入浴介護・入浴応用編2	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろうは実際見たことがあるのですが、中がどうなっているのかをしらなかったのでとてもためになりました。 ・映像がとてもリアルで、解りやすかったです。今後このような介助に就いた場合はこのビデオから得た知識がかなりの自信になると思います。様々な介助法がこのようなビデオになり家庭に配信されればもっと多くのひとが正しい介護法を手軽に学ぶことが出来、この企画自体すばらしいと正直思いました。 ・テレビなどで見て必要だと思ったものは録画しているので、いつでも必要なときに見られるようにしているが、今回のビデオは今回限りで見られなくなりそうで非常に残念です。
外出支援・車椅子編	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子から車、車から車椅子など移動する際高齢者を一人で立たせて車椅子を移動する為に介護者が高齢者から少しの間でも離れてしまってもいいのでしょうか？ちょっと気になりました。この場合立位のしっかりとれる方なのかなって思いながら見ていましたが・・・ ・生活援助でのお掃除について取り上げてもらいたいと思います。 ・福祉用具の使い方、口腔ケア、リハビリ体操。 ・施設なのか自宅での介護なのかでかなり介助の環境や条件が違うのではないかと。実践現場でのスキルアップを目指すためにももう少し技術的な解説を多く欲しい。また今後のテーマにつきましては日常一番大変な排泄介助、食事介助、衣類の着脱介助なども取り上げていただきたい。 ・病人を動かすのに体力が無くても動かす方法をTVで見たが忘れてしまった。これも取り上げて欲しいと思いました。
外出支援・杖編	<ul style="list-style-type: none"> ・寝たきりのおむつ交換や清拭。ただし、介護される人が体重の有る男性で困ることが多いのでそういうモデルでビデオを作製して下さい。 ・自分の足が不自由になったときのことを考えると、健康なときにしっかり覚えておいた方がいざというときに役立つと思った。
住宅環境・住宅改善編	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を犯罪から護る取り組みをしている地域もありますが、携帯電話を持っていなくても、老人に限らず救急車を呼びたいときはどこにいてもボタン一つで呼び出せたらと思います。
住宅環境・住宅環境編	-

(2) 遠隔講義

A ヒアリング調査結果

外出支援シリーズ（ヘルパーステーション）

外出支援シリーズの遠隔講義に参加した人は4人であり、ドライバーやヘルパーなどであった。遠隔講義の後に行ったヒアリング調査の内容をまとめたものを以下の表に示す。ビデオ学習については表 5.3 - 13、遠隔講義については表 5.3 - 14、遠隔講義については表 5.3 - 15 である。

ア) ビデオ学習についての研修生のヒアリング調査結果

表5.3 - 13 ビデオ学習についての研修生のヒアリング調査結果

項目	内容
ビデオを見て役に立った点や感想	<ul style="list-style-type: none">・ 健側に杖や車椅子を持ってくるとは思わなかったのが、新しい知識を得ることができよかった。・ ドライバーなので車から車椅子などの介助の方法も役に立った。・ ビデオの時間はちょうどよい・ ビデオはおもしろかった。・ 杖編のビデオ内容では、歩道が広く、歩道に人がいないので、現実とは差がある。実際の業務に関わる時は、歩道が狭かったり、人通りが多かったりするから。・ 車から車椅子は、道路が狭いので実際のところかなり難しい・ いろいろな項目があるので、見たいところをクリックしていく。一つの項目が1分くらいの長さなのでちょうど良い。
マルチアングル	<ul style="list-style-type: none">・ ビデオのマルチ画面は、前後、左右の状況が見えるのでどのように行なうのかがわかりやすい・ マルチ画面を介護する人の視点から写すことも考えても良いかもしれない。
クイズ・アンケート	<ul style="list-style-type: none">・ クイズは面白かったし、どこまで理解できたかを確認するのに役立った。・ インターネットのアンケートや質問サイトに回答をもらえると細かい情報をすぐに得られ、インターネットをより活用しやすいものだと思う。ビデオ学習のサイトに質問すると回答してくれるシステムがあるとインターネットの活用性が増す。
事業所でのビデオ学習環境について	<ul style="list-style-type: none">・ ビデオを長く流していると事務所の人や来所した人などが見る・ 事業所でビデオを他の人も見るが、ほとんどの人が画像をみないで音声だけを聞いている。
今後のビデオ製作に関する希望	<ul style="list-style-type: none">・ 実際の業務に関わる時は、歩道が狭かったり、人通りが多かったりするので、現実的なビデオも作成してほしい。・ 寝たきりの人のおむつ交換や清拭は重いので介護する人の腰が悪くなる原因になるので、ビデオを作ってほしい。・ 寝たきりの人の口腔ケア、嚥下障害の介助、重度の麻痺の人の介助方法などを作ってほしい。・ 重度の障害の人のやり方を参考にして、ビデオを作るとよりわかりやすいと思う。・ 重度の障害の人に了解をとって介助の実際を撮影するのもよいのではないかな。・ 車椅子を持って階段を上がる方法を教えてほしい。実際は2人で車椅子ごと持ち上げて上がるので腰に負担がかかる。

パソコンの環境設定	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンはあるが、慣れていないので、あまり使用しない。 ・リアルワンプレイヤーの設定がうまくいかないので、サポートがあると良い。
-----------	--

1) 遠隔講義についての研修生のヒアリング調査結果

表5.3 - 14 遠隔講義についての研修生のヒアリング調査結果

項目	内容
参加動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライバーなので、役に立つかと思って参加した。 ・事業所でチラシを見て興味があったので参加した。
遠隔講義に参加しての感想	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔講義ははじめてなのでおどろいた。 ・遠隔講義の参加者ももう少し多くても良い。 ・杖歩行の実技を行い、助言をしてもらったりしたので役にたった。 ・カメラワークを滑らかにしてほしい。 ・講師の目線がカメラ目線でないので、話しているという感じがしない。違和感がある。
今後の遠隔講義への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も参加したい。 ・講師がおもしろく話してくださったので遠隔講義に今後も参加したい。 ・近いところで行なうなら参加したい。 ・事業所で遠隔講義をやってもらうのは非常に良い。 ・複数の事業所を同時に e ケア・スタジオと結んで遠隔講義ができると他の事業所の人とも意見交換できるのでしてほしい。

2) 遠隔講義についての講師の感想

表5.3 - 15 遠隔講義についての講師の感想

<ul style="list-style-type: none"> ・講義をしていて、目線をどこにあわせればよいか戸惑った。 ・対面講義と異なって、研修生の反応がすぐにわからないので、話すタイミングをつかむのに時間がかかった。 ・遠隔地にいる人については、よい講義方法だと思う。 ・人数が少ないので手ごたえがあった。 ・e ケア・スタジオで講義や実演をしたので、介護用の物品がそばにありより細かい質問に応じることができた。 ・実技を実際に見て、その場で助言できたので、どれくらい理解できたかがわかりやすかった。かつ細かく助言ができる。 ・事前に打ち合わせをしたので、カメラの写し方や向きやなどがあらかじめわかっていたので、やりやすかった。 ・講義の時間はちょうど良い時間であった。

住宅環境シリーズ（公民館）

住宅環境シリーズの遠隔講義に参加した人は 31 人で、介護予防教室受講生 15 人、社会福祉協議会職員 2 人、民生委員 12 人、公民館職員 2 人であった。

遠隔講義の後に行ったヒアリング調査の内容をまとめたものを以下の表 5.3 - 16 に示す。

ア)研修生のヒアリング調査結果

表5.3 - 16 研修生のヒアリング調査結果

項目	内容
ビデオの感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオをはじめてみた時に、主人公は本当に足が痛いのだと思うくらい現実味があった。 ・ビデオはもう一度見たいと思う。 ・ああいうものモデル的な家でビデオを作るとはよいことだと思う。 ・ビデオは、もう一度みたい。施設の見学で入浴がどうされているか見たかった。 ・あのビデオは、まったく分かっていない人（初心者）にはよいと思う。 ・ビデオの長さは適当だったと思う。 ・ビデオで使用している文字は違和感がなかった。 ・色は、あのくらいでも色をはっきりしたほうがパンチはある。 ・2年前に改築しました。妻が入院していたので、住宅改修を妻が退院する前にやりました。1ヶ月もしないで亡くなってしまった。ビデオの住宅がうちと違いすぎるので参考にはならなかったが、年間所得 1000 万以下 30~50 平方m以下という一般市民をモデルにしたほうが身近に感じられるのではないか。 ・ヘルパー役が素人のようでホームビデオのような感じがした
遠隔講義の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の遠隔講義を体験できてとてもよかった。 ・画面では、両方向から会場とスタジオが同時に見れるので面白かった ・遠隔講義は、講義の部分が長く一方通行に感じたが、やり取り質疑応答していくうちに楽しくなった。 ・講義の面白さはあれくらいでよいと思う。 ・講義の途中からポインターを使って示してくれたのでわかりやすくなったと思う。 ・資料は今後参考にしたい。設計図が見つらなかった。縮尺があっていないように感じた。 ・講義中の字が見えなかった。 ・今日の講師も実際に見れば人間味のある人のように思うが、この会場で見るとはそうに感じるの無理だと思う。 ・講師の話の内容も新潟の話だったし、講師を知らないで新潟と東京で会話をしているような感じがした。 ・以前に面識がある人で遠隔講義を行うと良いのではないか。個人を知っていると知らないのとではちがうから。 ・プロジェクターで画面を見るために、室内を暗くする必要があったので、画面が暗く感じることもあった。 ・目が悪いので、講義中の資料の一覧表パワーポイントが見にくかった。

遠隔講義とビデオの両方をふまえた感想	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムは素晴らしかったと思う。このプログラムは今回で終わりと聞いているが残念です。 ・体験できてよかった。住宅改修の規制がある。できますよはいいいけれど、みんなが考えられるものを研究し、現実に即したものがほしいと思う。 ・今回の遠隔講義とビデオ学習は新しい試みで面白い。 ・妻は後遺症があるので、今日は具体的な住宅改修の図面がもらえると思って参加した。家は、リビングがあり畳の部屋もあるし階段もあるので改修に必要な基本的な図面がほしかった。 ・こうしたプログラムが続くならぜひまた参加したい。
今後の希望	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の実際は見学することが難しいので、おしもの洗い方とかをビデオで見たかった ・家内が障害者だが、障害者といってもいろいろな人がいる。個別的な相談についてネットで相談できる仕組みがあると尚良いと思う。 ・ソフト面で、特に人の心理とかもとりあげてほしい ・自分の田舎では、介護者同士の会話の場がないけれど、藤沢市は広報とかでも時折でていますよね。でも時間が決まっているからいけないこともある。ネットで介護者同士の情報交換やコミュニケーションができる仕組みがあると良いと思う ・介護する人、される人の気持ち相互関係？関する講義も必要だと思う。 ・女房の親が重度の痴呆。いい知恵があったら教えてほしい。 ・認定書がもらえるといっても、これがあると何か得になるのか？認定書の利得、社会的認証がなければ、それをもらってもあまり意味がないかもしれない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンは持っている。見方が分からないが娘に教えてもらえばなんとかなると思う。

B 遠隔講義のアンケート調査結果（公民館）

住宅環境シリーズの遠隔講義で行ったアンケートを集計した結果を円グラフにし、以下に示す。

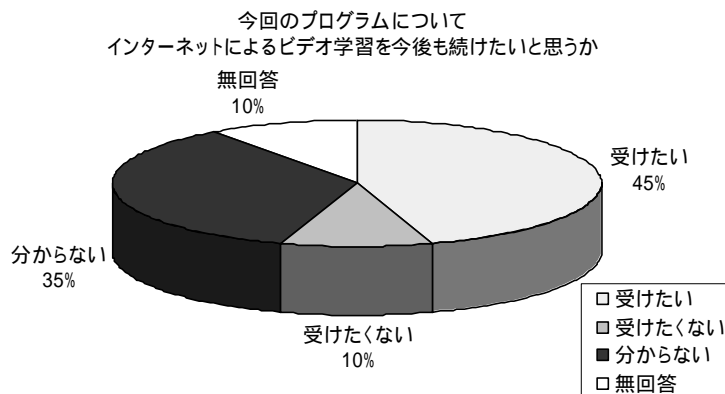
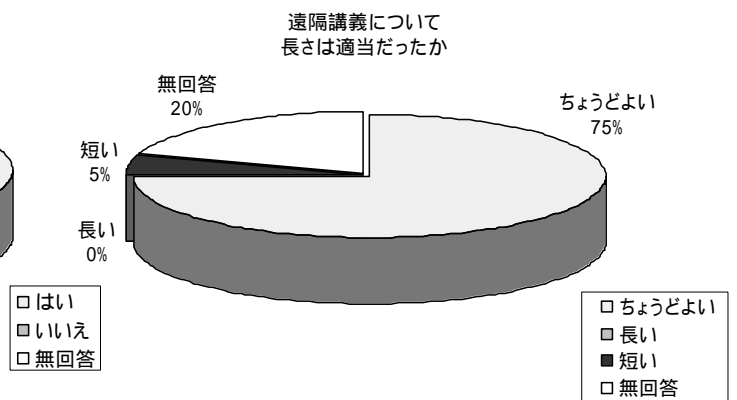
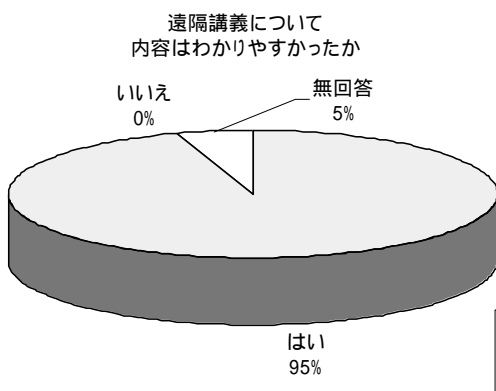
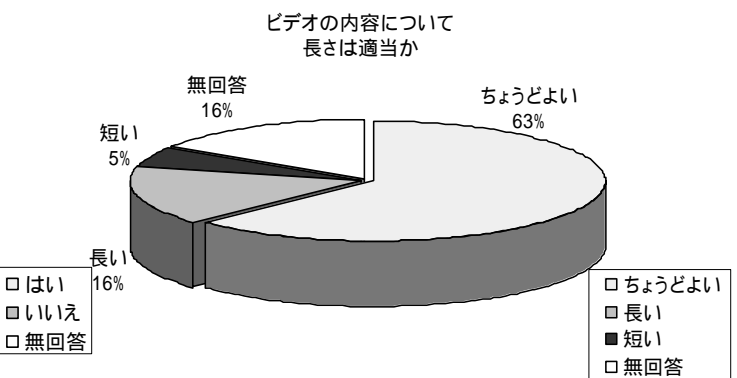
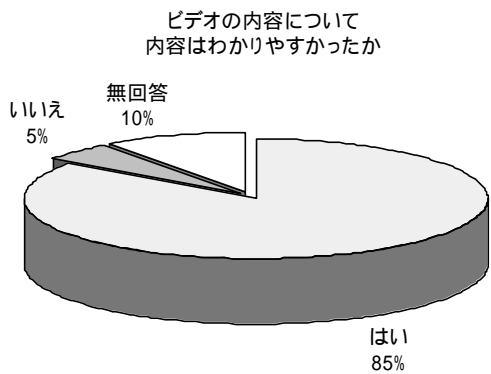
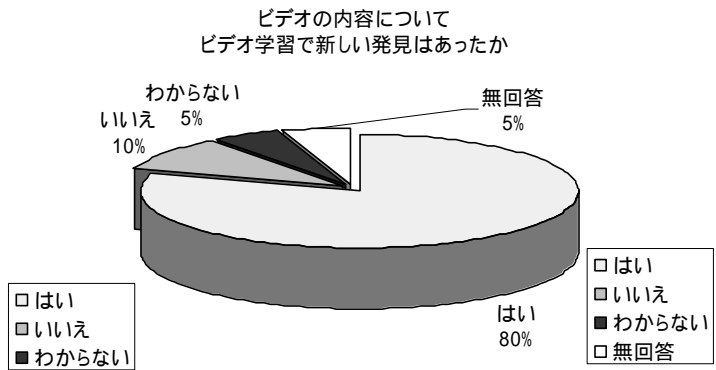
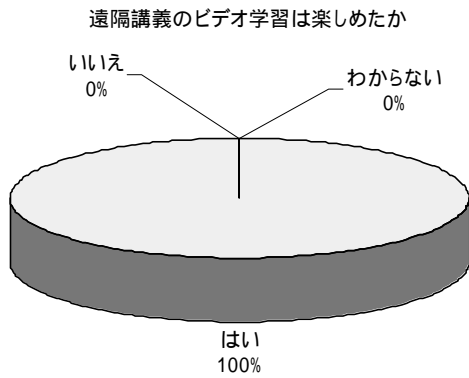


図5.3 - 32 遠隔講義のアンケート調査結果

図5.3 - 33 遠隔講義のアンケート調査結果（自由記述）

項目	内容	
ビデオの中で見たかった正面以外にみたかった角度・場面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後ろ ・ 改善後の風呂の取付け場所 ・ 右横、左横 ・ スライドの指針が出ればわかりやすかった。 ・ 講師説明する画面・・・ ・ 寝室で気が付かない事など ・ 上から ・ 例として後にあった階段を利用して説明があったが、他にはテレビの様に画面で映ると良かった。 	
遠隔講義の中で最も印象に残ったこと	住宅改修の具体的なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家の中で1 cm～2 cmの所でつまづく人がわりと多いのでよく勉強になりました。 ・ 家の中の手すりの付け方に考えて付ける ・ お家の改修工事をして、上手く使われていなかったり間違っていて取り付けられたりしてる事があるんだなあと思いました。 ・ 10 cmの段差よりも、1 cm、2 cmの方がつまづくのかあーと納得。 ・ 手すりを付ければ良いというものではないこと。 ・ 手すりを付ければ良いというものではなく、それぞれの需要があってから、どのような改修するか検討してからという事がわかりました。 ・ 障害によって手すりの位置が変わる。
	住宅改修の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいの工夫のなかで人の暮らしに合わせて住まいを少し変えてみる。 ・ 「何に困っていて、どうしたいのか。」という事です。 ・ バリアフリーをどう解釈しているか。 ・ 本当に必要なところに・・・家族、使う人が本当に知った上で・・・ ・ 一人ひとりに合わせて改修する事。 ・ 補綴性 ・ バリアフリー住宅に対する考え方、対処、又、使いやすい住宅改修についての講義は大変参考になりました。 ・ 試しをしないで改修すると失敗する。
	改修の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施工者に丸投げ。
	住宅改修以外の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雪国での介護の大変さが画面によくでていた。
	住宅改修以外の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浴槽内での溺死が多かったこと。 ・ 新潟県雪対策用の高床の家 ・ 内容的な方法 ・ スライドを見ながらの説明は参考になった。 ・ 事例が画面で見られよく理解出来た。 ・ 先生のお話は身近なことでとても良かった。 ・ 全体的にわかりやすい講義であった。

	その他感想	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔講義は初めてだったがとても良かった。 ・会場での講義だと講師の人の顔が遠い見えにくいが大きく見えて良かった。 ・講師の方もなれてくると表情がもっとやわらかくなると思う、緊張されていると思いました。 ・清家氏の論
遠隔講義 について の感想	全体の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・とても勉強になりました。 ・良かった。 ・非常に良い。 ・全く問題ないと思います。 ・具体的にビデオを見ながらの講義であったので、非常にわかりやすく、又意識しないで気軽に受講が出来てよかった。 ・講義というものを何十年ぶりに聞いて、いつもと違う現実にとまどいましたが、主婦でもこういう風にどこでもいろいろなお話が聞けることが出来れば幸せで良い勉強になり又何か講義を受けてみたいと思いました。 ・ブロードバンド時代になっているので、遠くまで行かなくても自宅で講義を受けられる時代の幕明けと思う。 ・在学生だけでなく社会人も気軽に専門分野の講義に参加できる様になればと期待しています。
	技術に対して：音声	<ul style="list-style-type: none"> ・音も良かったと思います。 ・話す声に少し聞き取りにくい部分はあったが、それ以外は良かったと思う。 ・音声は時々聞きづらい時があった。 ・音声が少し悪く聞き取りにくかったです。 ・話す声に少し聞き取りにくい部分はあった ・前半が音声が非常に悪くとても聞きにくかった。後半は良かった、最初から音声の調整をしておいて欲しかった。
	技術に対して：画像	<ul style="list-style-type: none"> ・画像もすごくきれいだった
	技術に対して：全体	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的に未熟だ。音、映像、画像説明、もっと理解度 up できる手段はある。 ・出来れば？（字が読めず）画面をさす指揮棒を？（字が読めず）指示が出来るよう（レーザー光線のようなもの）工夫をされたほうが良いと思う。 ・最新技術の習得のため多くの通信教育を受けた体験では、通信教育は紙面だけの限られた情報量で苦労しました。
	話の内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・お話は大変わかりやすく良かった。 ・例えばの話が多かったのですごく楽しく聞けました。 ・自宅のバリアフリーについて考えさせられた。
	講師について	<ul style="list-style-type: none"> ・きっと鈴木さん個人はすごく楽しい人でもっと人間味ある方だろうなと思うけれど、遠隔講義という事で「テレビの中の人」みたいで遠いなと感じました。やっぱり、近くがいいな。 ・はじめての経験でしたが、映像もはっきりしており、講師の鈴木先生の人柄がにじみ出るような内容でした。

	聞き手としての感覚	<ul style="list-style-type: none">・初体験で興味深かったのですが、直接講義をお聞きする方が集中できるように思いました。・臨場感がなく、面白みにかけるかもしれない。・自分のほうでよほど緊張して聞かないともらしてしまう可能性がある。・お互いに顔が見えるので良かったとは思いますが、直接話が聞けたらもっと良かったと思う。
--	-----------	---

ヘルパーステーション 外出支援編	公民館 住宅環境編
 <p data-bbox="252 757 359 790">講義風景</p>	 <p data-bbox="842 757 949 790">講義風景</p>
 <p data-bbox="252 1249 359 1283">講義風景</p>	 <p data-bbox="842 1249 949 1283">講義風景</p>
 <p data-bbox="252 1888 571 1921">受講者が実技している様子</p>	 <p data-bbox="842 1753 949 1787">質疑応答</p>

図5.3 - 34 遠隔講義風景

C 研修生の受講状況

「外出支援シリーズ」では、遠隔講義当日までにビデオ学習を終えていた研修生は、1名のみであった。そのため、遠隔講義に参加した研修生7名全員に改めて講義修了後にビデオ学習の促進と課題レポートを課した。しかし、提出期限までにレポートを提出した研修生は、0名であった。再度、ビデオ学習促進と課題について研修生へ通知しレポートの提出期限を延期したが、最終的に2月29日現在でレポートの提出はされていない。

「住宅環境シリーズ」では、公民館で行なった遠隔講義参加者31名に対して、一般市民からの参加が多いことやビデオの配信時期が遅かったことを考慮すれば、確実な学習プロセスを踏むことが困難であると思われたため、レポートの課題を課すことはできなかった。したがって、このシリーズにおける修了認定証を授与した研修生は0名であった。

こうした受講状況をふまえ、5.3.4.3において「学習プロセスとCertificate制度」について考察する。

(3) 遠隔講義実施の簡便性

5.3.3.3でのべた測定結果より、遠隔講義キットを使用することで、必要機材設置にかかる時間、人数は、毎回の研修において手当てのできるものであり、許容範囲であると判断した。また、小規模施設、および大規模施設の両方で利用できることも確認された。さらに、遠隔講義ケースに収められた機材は搬入・搬出・運搬についても、運送業者が簡単に取り扱うことができることから、実施する地域についても広い範囲で可能である。このことから、開発した遠隔講義キットが、講義実施の簡便性に貢献すると評価した。

5.3.5 考察

5.3.5.1 ビデオ学習

(1) 「ビデオ学習」のモニター登録者数 職種や背景、年齢層の拡大

昨年は Web 上で検索することができるようにしたが、配信した期間が短かったことも影響してか、アクセス数は500以下、ビデオ学習登録数は13人と非常に限られた数であった。しかし、昨年行ったニーズ調査では、自分のアドレスを持っている人は3割をこえていたので、ビデオ学習のモニター拡大の可能性はあると考えられた。そのため、今年度はビデオ学習のモニターの拡大をねらったパンフレットを5000部作成し、昨年度のニーズ調査の調査対象であるヘルパーステーションや、公民館で配布した。しかし、配信から約1年が経過した「入浴介護編」でもアクセス数をもっとも多いもので649件、関係者以外の視聴者数は7人であり、今年度作成した「外出支援・車椅子編」も約5ヶ月が経過しているが、アクセス数559件、視聴者数15人と伸び悩んでいる。今年度のモニター登録者は93名であり、年齢分布は不明を除くと40代以上が40%以上を占め、介護の学習者は中高年以上であることが明らかになった。この年齢層が高いことがインターネットによるビデオ学習が普及しない原因の一つと考えられる。また、ビデオ学習を知った経路を調べたが、登録者のうち8人がパンフレットを見たことがこのサイトを知るきっかけになっているが、パンフレット配布数が5000部であることから、効果的であったとはいいいにくい。パンフレットの配布先はオープンリサーチフォーラム時の配布数を除くと介護関係機関がもっとも多いため、ヘルパーや介護に関心がある人にとっては、インターネットによる学習は学習意欲を持たれないのではないかと考えられた。また、このビデオ学習の環境がADSLまたは光ファイバーを用いること、パソコンの機能も高くこの1年以内に購入したものでないことなどがアクセス数やモニター登録数が増加しない原因の一つとも考えられた。

遠隔講義の研修生へのインタビュー結果から「自宅にパソコンはあるが、インターネットはあまりや

ったことがない」という言葉が聞かれたことからインターネットを使用していないし、親近感が持っていない現状であることも推察された。

また、今年度は介護についての学習者があまりインターネットを使用していない現状が、昨年推察されたため、パンフレットにもアクセス支援隊を準備していることをのべ、サポート体制について学習希望者にわかるようにした。ビデオ学習開始時にトラブルが発生し連絡があったケースは3件あった。この数は当初予測したものより少ない数であった。トラブルの発生が少ないのか、ビデオ学習を開始しようとして、なんらかの問題が発生した時、連絡する人がどのくらいいるかは不明である。したがって、アクセス支援隊によってビデオ学習に対してのサポート体制を準備したことが、ビデオ学習の拡大に役立ったかは明らかにすることができなかった。アクセス支援隊が支援したケースもリアルプレイヤーがダウンロードできないという初歩的なトラブルであり、このことから介護についての学習希望者にとってインターネット上から新たなソフトをダウンロードすることも困難が伴うことが推察され、利用者が多いOSであるWindowsに付属しているmedia playerで視聴できるようにすることも必要と考えられた。

(2) ビデオ学習の効果・利点

ビデオを視聴後のアンケートでは、ほとんどの人が新しい発見があったとし、スキルアップにつながるとしていた。また、自由記載の感想では、「杖の付き方で悪い方に杖をもつものと思っていたが、今回の学習でよい方に持つことがわかった」など、「知識の確認ができた」や、昨年度作成した入浴編では、「入浴介護方法は初めて見た」や、ストーマをつけた人の入浴介護方法では「研修でも理解されなかった内容が詳細に解説され、わかりやすかった」など、ビデオを見たことでの学習効果があがっていると考えられた。

またビデオ学習は、「自宅でみることができよい」や、「自分の時間のゆとりがある時にみることができ」、「必要なところは何回も見ることができ」、「またビデオの内容が項目だてされそのインデックスから選んで学ぶことができ、その一つが1分と短いのでよい」とした人もいた。このことはビデオによる介護技術の学習は普及しているが、インターネットを使用した学習媒体であるメリットがいかされ、学習を容易にする環境がよりよく整えられたと考えられた。

マルチアングルについては、「前後、左右の状況が見えるのでわかりやすい」とした人がいた。今回はマルチ映像の部分が少なかったため多数のモニターからの意見ではなかった。しかし、介護技術を習得するための学習では、介護するときの介護者の手の位置、介護者と要介護者位置関係をしっかり捉えることは、要介護者の安全・安楽、介護者の腰痛防止などの点からマルチ画面での学習は重要と考えられる。

クイズに解答した人は、「おもしろかったし、どこまで理解できたか確認するのに役だった」という声が聞かれクイズは学習を効果的に行うことに有効と考えられた。昨年、クイズ解答者は少なかったため、クイズに解答することを促すような表示を今年から加えたが、今年もビデオ学習者のうちクイズ解答者は一部であり効果的でなかった。さらにクイズに解答したくなるような工夫をすることが必要と考えられた。

(3) 知識・技術の習得に関する、ビデオ学習の改善点

ビデオ学習の感想の中に、「ビデオの内容は初歩的である、もっと重度の人の介護方法を取りあげてほしい」や「大きな人、重い人の介護など、いろいろな人の条件設定ができるとよい」などがあった。今回のビデオ学習は介護の基本に立ち返ること、また要介護者のクオリティライフが充実することができるような視点を重視している。したがって、あまり特殊な介護方法、個別に対応が必要とされるものは取り上げていない。しかし、介護方法はその個々にあった方法を工夫していくことも必要で、ビデオ学習では対応できにくいものについては遠隔講義や対面の学習、その他の方法でより個別性を

重視した内容を具体的に学べるようにしていくことも必要である。すなわち、ビデオ学習は学習のきっかけづくりであり、介護方法を学ぶことはビデオ学習だけで完結することはできないことも明らかになり、ビデオ学習したことからさらに学習が発展し深まるような機会をつくっていく必要があると考えられた。

また、マルチアングルについては、介護者の視点で撮影することで、より位置関係が把握しやすいのではないかという意見もあり、マルチアングルの撮影方法にはさらに工夫が必要であると考えられた。

(4) モニターの学ぶ意欲の向上

昨年のビデオ学習者からの意見に、「自分の学習履歴がとっておけると過去のクイズの回答状況と再度クイズを行った時との比較ができるとよい」というのがあった。ビデオ学習を何度か行い、技術や知識を確かなものにしていくことは重要であり、学習履歴など学習意欲を高めていく工夫は重要と考えられる。

5.3.5.2 遠隔講義

(1) ヘルパー、および市民の学習機会の増大

今年度は身近な場所での遠隔講義を行うため、勤務先のヘルパーステーションと公民館で実施した。ヘルパーステーションでの実施の感想では、身近な場所で学習できてよいなど肯定的な意見が多く聞かれた。一方、公民館では身近でよかったというよりは、eケア・スタジオからの中継は遠い感じがするという意見が多かった。これにはヘルパーステーションはeケア・スタジオから1時間以上かかるため、無駄な時間なく効果的な学習ができたという気持ちになったのではないかと考えられる。公民館はeケア・スタジオから車で10分位のため、研修者もそのことは多くが知っており、対面の方がよいのという思いが強かったのではないかと考えられた。また、ヘルパーステーションの講義では、杖歩行の人への介護方法をeケア・スタジオの設備である階段を使用して解説する場面があった。また質問に答えるためにスタジオ内の福祉機器を使ったので、スタジオで行うことが有効であった。公民館に向けての遠隔講義は「住居改善」でスライドに撮った例を講師が説明し、実際のスタジオの設備を使った説明をしなかったことも関係していると考えられる。

公民館での遠隔講義には、公民館職員の方たちの協力で周辺の民生・児童委員への呼びかけがされたことにより、介護教室参加者に加え全員で30人以上の人が集まって学習することができた。これはeケア・スタジオには収容することができない人数なので、遠隔講義を公民館という場所で行ったことの意義はあったと考えられる。しかし、公民館での学習は多人数で学習するため、テレビ画面ではなくプロジェクターを用いたが、画像が粗になり見にくくなった。プロジェクターの機種の種類や、室内の環境を整え見やすい環境づくりに工夫をすることも必要であったと考える。

(2) モニターの知識技術の獲得

ヘルパーステーションでは遠隔講義の中では、一部であったが実技を確認する場面をもうけた。これは杖歩行の介助で、外出支援のドライバーとして介護場面で個々に対応していたが、いままで介護方法について指導を受けたことがなく、間違ったやり方をしていたことを発見した人もあり、専門家の指導を受けることの重要性を確認できた。

5.3.5.3 学習プロセスとCertificate制度

(1) モニターの学ぶ意欲の向上

Certificate 制度は、インターネット上での「ビデオ学習コース」を確実にやり、その後「遠隔講義コース」の研修を修了し、課題レポートを提出したモニターに修了認定証を授与することで、学習意欲の向上をめざすものである。

今回のビデオモニター登録から遠隔講義のプロセスは、昨年とは違い、ヘルプステーションや公民館を通じて行ったため、当初考えていたビデオ学習を修了したものが遠隔講義にすすむという学習プロセスではなくなってしまった。これは、ヘルプステーションでは遠隔講義の参加者募った形になってしまったこと、公民館では一般の公民館の教室である介護教室の受講者であったためである。ヘルプステーションのモニター7人のうち、実際にインターネットを利用しての学習者は4人、公民館の遠隔講義参加者31人のうちインターネットでの学習者は2人であった。これらは、モニター募集の仕方が「インターネットで介護技術を学習しましょう」という呼びかけに応じたモニターでなかったため、モニターのインターネットで学習しようという学習意欲が昨年に比較し少なかったためと考えられる。

このような事情であったため、レポート課題はヘルプステーションでは出題したが反応はなかった。公民館では一般の住民等であり課題の出し方も難しく、学習意欲を向上できるか疑問であったため出題しなかった。公民館の遠隔講義参加の研修生の声に「プロジェクトからの認定書がもらえて何になるのか」という声も聞かれ、認定制度が必ずしも学習意欲継続に効果的ではないことも明らかになったと考える。

5.3.6 課題・今後の展望

(1) モニター登録拡大への課題

介護について学習したい人が年齢層も高くインターネットに遠い存在であるようにも感じられるが、インターネットでの介護の学習を拡大するためには、このプログラムに興味をもつような人のアクセスの機会を増加することが必要である。しかし、インターネット上で検索エンジンでは、「介護技術」などのキーワード検索で直接的に本プログラムにヒットしないことが多い。「e ケアプロジェクト」からのトップページからの誘導も誰でも簡単にできるというものになっていない現状である。そのため、介護技術についての情報がほしい人など、ビデオ学習に直接的に結びつきやすい人が、このプログラムにアクセスしやすいようにしていくことが重要な課題である。

(2) 遠隔指導における、双方向の学習機会の工夫

考察で述べたように、インターネット上でのビデオ学習は基礎的な知識を得たり確認したりするためには有効であるが、個別的な介護方法を学ぶためには限界がある。そこで、ビデオ学習からさらに学習を発展させ、個別的な介護方法を学ぶ機会をつくっていくことが大切である。今回のビデオの配信時に、問い合わせ先が明記してあり、その問い合わせ先に、ビデオ学習者が自分の周辺にいる人の介護方法について質問してきたケースがあり、それに対して回答したら、また新たな質問をしていくという状況があった。今回の場合、明記の仕方が個別な質問に対応しますという表示の仕方ではなかったため、1例であったが、個別ケースへの対応方法も質問に応じますというようにすれば、さらに多くの質問があつまったと考えられる。このことは、今回プログラム参加者からも、個別に相談できるシステムがあると良いなどの希望があり、双方向の学習機会を多くの人が望んでいることが示唆される。ビデオ学習からの発展を対面学習や遠隔講義などに限定して考えがちであるが、介護についての知識や技術についての個別ケースに対応した方法を、メール等を用いた学習方法で検討することも重要である。昨今、携帯電話などで簡単にデジタル写真を撮り、やりとりすることが可能となっているので、介護を提供している現場で困った時に、容易に技術指導をする仕組みも考えられるのではないかと思われる。

(3) インターネット学習のためのパソコン簡便な操作性の向上

介護の学習希望者にとってパソコンを操作してインターネットを利用することは、いつも親しんでいないため、容易であるとはいえない状況であることが本事業を実施し確認できた。しかし、ビデオ学習を利用者からはビデオとは違ったメリットを感じ学習意欲が向上していると思われるコメントも得ている。したがって、パソコンの操作性を簡便にし、テレビは電源を入れるだけで見ることができるよう、インターネット利用のビデオ学習もワンボタン操作で見ることが可能となるようにしていくことも重要な課題であると考えた。



介護技術のスキルアップ

インターネットでビデオ学習



好きな場所で好きな時間に介護の勉強ができます！
ビデオを見てクイズに答えたり、
またビデオを見たり。
介護に必要な技術や知識が楽しく学べます。
インターネットだから巻き戻さなくても見たいところから見られます。

まずは、インターネットで次のアドレスにアクセス！

< <http://www.e-care-project.jp> >

簡単なアンケートに答え、アドレスを登録するだけで見ることができます。

インターネットでビデオなんか見たことがなくても、
アクセスしたけどうまくいかなかった方でも心配なく！
下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
できる限りのご相談にお答えします。



このビデオ学習は、総務省予算により藤沢市、慶應義塾大学、NTT東日本、
藤沢市保健医療財団により実施している「e-ケアタウンふじさわ」から提供しています。
ビデオ学習をしていただく方は実証実験の協力者となります。
ビデオ学習のあとにインターネットを使用した研修会も予定しています。
参加ご希望の方はご連絡ください。

■ビデオを快適に見るために、以下の条件があります。

回線：ADSLまたは光回線によるインターネット接続
パソコン：Windows (2000, ME, XP)搭載のパソコン
CPU Pentium800MHz以上
メモリ 256MB以上 等

■お問い合わせ先

e-ケアタウンふじさわ 実証コンソーシアム
慶應義塾大学SFC研究所内
e-ケアタウンふじさわ問い合わせ窓口
TEL：0466-49-3618
FAX：0466-49-3622（問い合わせ時間 10時から17時）
e-mail：info@e-care-project.jp



『外出支援』講義資料

2003年12月13日

担当 中田 光彦

〈ケア編〉

- (1) ケアは目的づくりから
～「江の島」に行くんだから、トイレへ行こう・歩く練習をしよう～
- (2) 楽しさに理由づけ（一訓練、一療法、一効果）はいらない。専門バカになってはいけない
～楽しさ＝ADL (日常生活Activities Of Daily Living)・QOL (生活Quality Of Life) の向上～
- (3) あたりまえの“こだわり”を持ってもらう。ついでに感性も引き出してみよう
～見る・聞く・しゃべる・笑う・食べる・嗅ぐ・考える・歩く・書くetc～
- (4) 昼間活動するから、夜はよく眠れる。薬の乱用・抑制をやめよう
～離床は褥瘡・骨粗鬆症・関節拘縮・筋力低下・便秘・失禁・食欲不振・肺炎・痴呆等の防止～
- (5) TPO (Time・場所Place・機会Occasion) に合わせたオシャレ。美白・顔黒OK。ビジュアル系介護！
～ジャージと名前の入ったバレシューズ、職員はユニフォームで付き添う外出はヘン～
- (6) 外出の注意点
～本人と家族の意志・既往症・バイタルチェック・必要なら主治医の確認・公衆トイレの確認～
- (7) 老人性痴呆⇒“老人性非行”のススメ
～海・山・テーマパークetc、外出するから元気になる。脱（画一・管理・規則・指導）～
- (8) 老人性痴呆⇒“老人性夜行”のススメ
～居酒屋・花火・カラオケで夜はグッスリ。早朝暗い時間の起床がなくなる～
- (9) 個別な対応が迫られる“現代症候群”。実はどこにでもいる普通の人
～ADHD (注意欠陥多動性障害Attention-Deficit Hyperactivity Disorder) ・LD (学習障害Learning Disabilities) ・PTSD (心的外傷後ストレス障害Post-Traumatic Stress Disorder) ・入浴しない汚ギャル・偏食から起きる味覚障害・摂食障害・インターネットお宅・部屋の片づけができない人・ひきこもり・虐待・多重人格・子供を叱れない親と大人～

〈職員編〉

- (1) 介護保険は独自の“魅力作り”
～サービス事業所は選ばれる。職員の魅力と、職場の魅力を創造し、供給していこう～
- (2) “機”（現代社会の知識）の情報受信だけでなく、“機”（子供や高齢者の知恵）の情報受信を
～知識の受信から、実践の発信をしてみよう～
- (3) 仕事のマンネリ化は、その人の嫌いな部分しか見ていないことから起きる
～“日常介護⇒本人の好きなことを実践”意外な意欲の発見から新鮮な仕事ができる～
- (4) ひとりひとりの個性を活かしていくのが本当のチームワーク
～“あなただけできることをやらないで”足の引っ張り合いが職員の質の低下につながる～
- (5) “良い人”よりも“おもしろ味のある人”になろう
～“こりない・しつこい・ずうずうしい”の精神で、笑ってごまかそう～
- (6) 職場は上司や方針より、ムードメーカーで決まる
～現場の着実な実践と、利用者の笑顔を引き出す実践が一番影響を与える～
- (7) 自ら提案しよう、嫌われることを恐れずに
～文句や反対は気にしない。すぐ辞めようと思わずに、居座ることも嫌がらせ～
- (8) 休日はよく遊び、“遊び心”を仕事に生かす
～人をうらやんだり、足を引っばるより、利用者の笑顔を増やすことをやろう～

中田光彦の著書紹介 《7冊の本の特徴 ①笑える ②専門用語が出てこない ③老人介護が楽しくなるヒントがある》

	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">今をときめいて!</h3> <p>【個別希望の全貌】</p>	豊母(きらら)書房 2415円 1989年発刊
	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">老人介護のあそび学</h3> <p>【'抵抗勢力'対策】</p>	リフリオ出版 1470円 1991年発刊
	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">ついでひらめき無計画</h3> <p>【個別の在宅介護】</p>	筒井書房 1575円 1994年発刊
	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">アドリアケアのすすめ</h3> <p>【虚構応変なケア】</p>	医学書院 2100円 1995年発刊
	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">わたしはトメ、19歳</h3> <p>【特養が舞台の小説】</p>	リフリオ出版 1365円 1996年発刊
	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">もっとアドリアケア</h3> <p>【アドリアケアの真髄】</p>	医学書院 2100円 1998年発刊
	<h3 style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">楽する老人介護</h3> <p>【介護教室の教則本】</p>	豊母(きらら)書房 1260円 2002年発刊

◇横浜市の特養で生活相談員をしていた時の処女作品。海水浴・居酒屋・お化け屋敷

◇特養時代の第2弾。パチンコ・コンサート・温泉旅行・夜間入浴・会議の攻略方法

◇外出大好きなホームヘルパー、授業は'現場の新ネタ'大学講師になってからのもの

◇夏合宿'老人と海'全貌。笑える介護教室。楽しい職場。秘講演裏話。目隠しの授業

◇漫画化「らぶそんく」全保公演中!劇団銅鑼(どら)03-3937-1101 ◇マンガ化「老人愛」市川りんたろう著(豊母書房)1999年発刊

◇イラストがたっぷり!食事・排泄・入浴・痴呆の基本介護とコツ。起こす口説き方

～【中田光彦プロフィール】 社会福祉士・介護福祉士・ケアマネジャー

1955年10月12日、北海道小樽市生まれ。特別養護老人ホームの生活指導員、淑徳大学講師を経て現在、鎌倉市社会福祉協議会登録ホームヘルパー

横浜市介護認定審査会委員・NPO法人「風の詩」理事他に、講演・介護教室・職員研修・相談・専門学校講師等

講演・介護教室・職員研修の依頼・介護相談は、
 〒247-0054 神奈川県鎌倉市高野27-20
 TEL/FAX 0467-47-0692
 E-mail nakata-mitsuhiko@mc.biglobe.ne.jp
 ホームページ //www.5b.biglobe.ne.jp/~M-Nakata/

高齢者の自立支援と住まいの工夫

介護保険の「住宅改修」をどう活用するか

国立保健医療科学院 鈴木 晃

1. 住まいに合わせて暮らすか、暮らしに合わせて住まいを工夫するか

- * 「居は氣を移す」(孟子): 人は住む場所や環境によって、その性質や思想も変わる。
- * 「住まいに合わせて暮らす」 v s 「人の暮らしに合わせて住まいを少し変えてみる」
- * 「住み手」と「つくり手」が顔を会わせない住宅市場（例えば分譲住宅）に変わった住んでのちの「住み手」のニーズの変化を「つくり手」は知る機会がない

2. 高齢者の暮らし・自立と住まい

- * 住まいの条件は、居住者の健康な暮らしに影響を与える
たとえば、広さ
適正規模論

(1) 事故を予防し健康を維持する住まいの役割（予防性）

* 住宅内事故

表 家庭内の不慮の事故死（平成 12 年人口動態統計）

	総 数	内 65 歳以上
家庭における不慮の事故死 計	11,155(100.0%)	8,378 (75.1%)
転倒・転落	2,163 (19.4%)	1,568 (72.5%)
同一平面上での転倒	998	858
階段やステップでの転落・転倒	418	276
建物や建造物からの転落	401	160
その他の転倒・転落	346	274
不慮の溺死・溺水	3,293 (29.5%)	2,828 (85.9%)
浴槽内での溺死・溺水	3,039	2,633
浴槽への転落による溺死・溺水	87	62
その他の溺死・溺水	167	133
煙、火および火炎への曝露	1,236 (11.1%)	685 (55.4%)
その他の不慮の窒息	3,475 (31.2%)	2,777 (79.9%)
気道閉塞を生じた食物等の誤えん	2,531	2,179
その他の不慮の窒息	944	598
熱および高温物質との接触	150 (1.3%)	130 (86.6%)
有害物質による不慮の中毒・曝露	348 (3.1%)	109 (31.3%)
その他の不慮の事故	490 (4.4%)	281 (57.3%)
(参考) 交通事故死	12,857	4,845 (37.7%)

- * 健康な家族関係
 - 個（世代間）のプライバシーと適切なコミュニケーション
- * つくられる「ねたきり」
 - 住まいがつくる「ねたきり」；狭くてベッド（車いす）が使えない・・・・・・・・
- * 引っ越しうつ病
 - 転居と高齢者のストレス
- * 必要なときに、容易な改善ができるように事前（新築時）に配慮
 - バリアフリー住宅とは？

(2) 身体の衰え、障害を補う住まいの役割（補綴性）

- * 機能障害と生活障害の区別
- * 障害、生活、住宅の個別性 = 補うべきモノの個別性

2. 自立支援として住宅改修はうまくいっているか

(1) 住宅改修の現状と課題

- * だれが住宅改修を利用しているか
- * 効果的な改修が行われているか
- * ケアマネージャーが果たすべき役割とケアマネージャーのバックアップ

(2) 住宅改善の失敗

- * どこ（どういふとき）の住宅改善が失敗しやすいか
 - 浴室
 - 退院前

(3) どうすると失敗するか

- * 目的（具体的課題）がはっきりしない（何に困っていて、どうしたいのか）
- * 本人（家族）が改善の必要性を理解していない
- * ワンパターン（スロープや浴槽の誤解 / 右まひ用トイレ???)
- * 試しをしない
- * 使われ方をきちんと想定しない
- * 施工者に丸投げ

[参考]

- * 鈴木晃編著『保健婦・訪問看護婦のための住宅改善支援の視点と技術』日本看護協会出版会、1997年。
- * 鈴木晃監修「住宅バリアフリー化情報提供システム」<http://www.refonet.jp/bfree/lis.html>

**e - 専門家スキルアップ講座 住宅改善アンケート
遠隔講義時のアンケート (04.2.14)**

- 以下の設問に当てはまるものには をつけてください。

1. 遠隔講義の前のビデオ学習は楽しめましたか？

- a. はい
- b. いいえ
- c. わからない

2. ビデオ内容についてお聞きします。

) ビデオ学習で新しい発見はありましたか？

- a. はい
- b. いいえ
- c. わからない

) 内容はわかりやすかったですか？

- a. はい
- b. いいえ

) 長さは適当でしたか？

- a. ちょうどよい
- b. 長い
- c. 短い

) 今回のビデオの中で、正面以外に見たかった角度はありましたか？

- a. ある (後ろ・右横・左横・その他 ())
見たかった場面 ()
- b. ない
- c. わからない

3. 遠隔講義についてお書きください。

) 内容はわかりやすかったですか？

- a. はい
- b. いいえ

) 長さは適当でしたか？

- a. ちょうどよい
- b. 長い
- c. 短い

) 講義の中でもっとも印象に残ったことは？

) 遠隔講義についての感想を自由にお書きください

4. 今回のプログラムについてのご意見をお聞かせください。

) インターネットによるビデオ学習を今後も受けたいと思いますか？

- a. 受けたい
- b. 受けたくない
- c. 分からない

ご協力ありがとうございました